

科目名	衛生管理						
科目名(英)	Public health & hygiene management						
単位数	—	時間数	30時間	担当者	竹原直道・相良 献		
実施年度	2019年度	実施時期	通年	実務家教員 担当科目			
対象学科・学年	美容科 2年						
授業概要	美容現場の中核として存在する美容師は、公衆衛生並びに環境衛生の知識が必要である。また職務上、日常的に利用者との身体的接触が避けがたい局面に遭遇する。当然美容師自身が利用者より予期せぬ感染症に感染する危険にさらされる可能性とともに、自らが感染症を利用者へ感染させる媒体となる可能性も想定される。このような危険性が常に存在する以上、美容師には感染症ならび感染症の予防と衛生管理に資する、充分で確実な知識並びに消毒を実践する能力が求められることは当然である。この授業では、他の科目とリンクしながら必要な衛生管理の知識と実技の習得を目的とする。						
授業形式	講義: ○	演習: △	実習:	実技:	※ 主たる方法:○ その他:△		
学習目標 (到達目標)	目標						
	<input type="radio"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	美容業に関連する感染症の知識を知ったうえで、その感染症の危険性を指摘することができる。		
	<input type="radio"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	代表的な感染症やその症状を知ったうえで、その感染症の感染経路や病原体を説明することができる。		
	<input type="radio"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	感染症予防の3原則について、その対策を3つ以上列挙し、説明することができる。		
	<input type="radio"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	消毒法の種類を列挙し、それぞれの利点、欠点をあげ、説明することができる。		
<input type="radio"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	消毒薬の希釈について、机上計算とシミュレーションをすることが出来る。			
テキスト・教材 参考図書	・日本理美容教育センター版 衛生管理 ・日本理美容教育センター版 ワークブック						
授業計画	回数	授業項目・内容			授業外学修指示		
	1	感染症発見の歴史、感染症と法律、感染症の法律上の分類			教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと		
	2	病原体の身体への侵入・媒介経路による分類			教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと		
	3	病原体別による分類			教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと		
	4	微生物の種類、微生物の形と大きさ、微生物の構造、微生物の増殖と環境の影響			教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと		
	5	微生物の病原性と人体の感受性、汚染、感染及び発病			教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと		
	6	常在細菌叢、免疫と予防接種、感染症発症の要因			教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと		
	7	感染症予防の3原則			教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと		
	8	感染症総論の練習問題			教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと		
	9	空気・飛沫を介して感染する感染症。結核等			教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと		
	10	飲食物を介して感染する感染症・血液を介して感染する感染症			教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと		
	11	動物・節足動物を介して感染する感染症			教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと		
	12	具体的な対策の例			教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと		
	13	感染症に関する練習問題(1)			教科書全体に目を通しておくこと		
	14	感染症に関する練習問題(2)			教科書全体に目を通しておくこと		
	15	感染症に関する練習問題(3)			教科書全体に目を通しておくこと		
	16	消毒とは・消毒の意義・消毒に関連のある法の規定			教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと		
	17	消毒を怠った場合の危険性と美容師の責任・消毒法の種類・消毒に必要な条件・微生物の抵抗力			教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと		
	18	理学的消毒法(竹原・相良)			教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと		
	19	化学的消毒法・アルコール・次亜塩素酸ナトリウム・界面活性剤			教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと		
	20	化学的消毒法・グルコン酸クロルヘキシジン・その他			教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと		
	21	すぐれた消毒法とその実施上の注意			教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと		
	22	消毒法総論の練習問題			教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと		
	23	消毒法実習・各種消毒薬・器具の使い方・常備しておくことよい消毒薬と希釈液の濃度			教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと		
	24	消毒薬希釈法			教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと		
	25	美容所の消毒の実際			教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと		
	26	美容所における衛生管理要領			教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと		
	27	消毒と自首管理体制・自主管理点検表			教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと		
	28	消毒法に関する練習問題(1)			教科書全体に目を通しておくこと		
	29	消毒法に関する練習問題(2)			教科書全体に目を通しておくこと		
	30	消毒法に関する練習問題(3)			教科書全体に目を通しておくこと		
評価方法	(1)定期試験(筆記)を実施する。 以上を下記の観点で評価する。 成績評価基準は、S(90点以上)・A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以下)とする。						
		言語情報	知的技能	運動技能	態度・意欲	その他	評価割合
	定期試験	◎	○				100%
履修上の注意	出席が20回に満たない場合は、定期試験の受験資格を与えない。						

科目名	美容保健					
科目名(英)	health cosmetology					
単位数	—	時間数	60時間	担当者	山口薫	
実施年度	2019年度	実施時期	通年	実務家教員 担当課目		
対象学科・学年	美容科2年					
授業概要	<p>年度末の国家試験の合格を目標とし、美容保健の知識が美容の仕事に、また、個人の健康管理に生かされるように学習する。また、美容師として知っておくべき解剖学に関する基礎知識、現場で役立つ知識を知ることが目標とする。</p> <p>前期では人体の機能を中心に学び、美容師として社会貢献できるように国家試験合格を目指し学習をする。後期では皮膚科学に関する事を中心に学習をしていく。</p>					
授業形式	講義: ○	演習:	実習:	実技:	※ 主たる方法:○ その他:△	
学習目標 (到達目標)	言語情報	知的技能	運動技能	態度意欲	その他	
		○				目標
		○				美容技術に関係する人体組織について説明ができる。
	○					業務を効果的に行うための、皮膚、毛髪などに関する知識の説明ができる。
	○					「人体の構造と機能」及び「皮膚科学」について口頭で質問した事に答える事ができる。
					美容業に関係する保健の問題に対して、正しく回答が出来るようになる。	
テキスト・教材 参考図書	美容保健教科書・配布プリント・筆記用具					
授業計画	回数	授業項目・内容			授業外学修指示	
	1	1編1章 頭部の体表解剖学				
	2	1編1章 顔部、頸部の体表解剖学			予習・復習・プリントの整理	
	3	1編2章 骨格器系 …骨の種類と構造			予習・復習・プリントの整理	
	4	1編2章 骨格器系 …骨髄について			予習・復習・プリントの整理	
	5	1編3章 筋系 …頭部の筋			予習・復習・プリントの整理	
	6	1編3章 筋系 …上肢と下肢の筋			予習・復習・プリントの整理	
	7	1編4章 神経系…脳について			予習・復習・プリントの整理	
	8	1編4章 神経系…脊髄 について			予習・復習・プリントの整理	
	9	1編5章 感覚器系 …五感について			予習・復習・プリントの整理	
	10	1編5章 感覚器系 …神経系の保健			予習・復習・プリントの整理	
	11	1編6章 血液・循環器系 …心臓について			予習・復習・プリントの整理	
	12	1編6章 血液・循環器系 …血管について			予習・復習・プリントの整理	
	13	1編6章 血液・循環器系…まとめ			予習・復習・プリントの整理	
	14	1編7章 呼吸器系/1編8章 消化器系			予習・復習・プリントの整理	
	15	1編7章 呼吸器系/1編8章 消化器系…消化腺 酵素			予習・復習・プリントの整理	
	16	2編1章 皮膚の構造…皮膚			予習・復習・プリントの整理	
	17	2編1章 皮膚の構造…皮下組織・細胞			予習・復習・プリントの整理	
	18	2編2章 皮膚付属器官の構造…脂腺について			予習・復習・プリントの整理	
	19	2編2章 皮膚付属器官の構造…汗腺について			予習・復習・プリントの整理	
	20	2編3章 皮膚の循環系・神経系 …保護作用 外的刺激			予習・復習・プリントの整理	
	21	2編3章 皮膚の循環系・神経系 …免疫・解毒・排除作用			予習・復習・プリントの整理	
	22	2編4章 皮膚の生理機能…皮膚の再生作用			予習・復習・プリントの整理	
	23	2編4章 皮膚の生理機能…皮膚の生理機能			予習・復習・プリントの整理	
	24	2編5章 皮膚の保健…皮膚の状態について			予習・復習・プリントの整理	
25	2編5章 皮膚の保健…アルカリ中和機能について			予習・復習・プリントの整理		

	26	2編6章 皮膚の疾患・・・一次性刺激物によるカブレ	予習・復習・プリントの整理				
	27	2編6章 皮膚の疾患・・・菌による疾患	予習・復習・プリントの整理				
	28	国家試験に向けて・・・1編1章 頭部の体表解剖学～1編5章 感覚器系	予習・復習・プリントの整理				
	29	国家試験に向けて・・・1編6章 血液・循環器系～1編7章 呼吸器系	予習・復習・プリントの整理				
	30	国家試験に向けて・・・2編1章 皮膚の構造～2編6章 皮膚の疾患	予習・復習・プリントの整理				
評価方法	(1)授業の中で小テストを4回実施する。(2)宿題・レポートを数回実施する。(3)定期試験(筆記)を実施する。以上を下記の観点・割合で評価する。 成績評価基準は、S(90点以上)・A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以下)とする。						
		言語情報	知的技能	運動技能	態度・意欲	その他	評価割合
	定期試験		○				70%
	小テスト	○					10%
	宿題・レポート				○		10%
	発表・作品	○					10%
履修上の注意	小テストにて平常点を加点する。毎講義においてプリントを配布するため、それらを保管できるファイル(フラットファイル形式が理想)を購入し、必ずプリントの整理を行っておくこと。						

課目名	文化論						
課目名(英)	Theory of Barber and Beauty culture						
課目単位数	—	時間数	30時間	担当者	遠藤 広美		
実施年度	2019年度	実施時期	通年	実務家教員 担当課目			
対象学科・学年	美容科2年						
授業概要	人の歴史の最古から、美容がかかわってきたことを学ぶことは、今を知るためにとても重要である。歴史の中で創り上げられてきた「美しさ」があり、現代のものとの融合することで新しいスタイルを生み出すことができる。文化論の中にはデザインを発想する為のヒントや、創造の幅を広げるエッセンスが多く存在する。文化を知り学び、知識を得ることにより、お客様が求める美しさを的確に理解し、幅広いスタイル提供ができる、即戦力に繋がる社会人を目指す。						
授業形式	講義: ○	演習:	実習:	実技:	※ 主たる方法: ○ その他: △		
学習目標 (到達目標)	言語 情報	知的 技能	運動 技能	態度 意欲	その他	目標	
	○					日本、西洋のファッションの文化史における文化の流れを理解し説明することができる。	
	○					日本のファッションにおける、髪型、メイクを説明することができる。	
	○					礼装の種類を理解し、歴史を説明することができる。	
テキスト・教材 参考図書	日本理容美容教育センター 文化論教科書						
授業計画	回数	授業項目・内容			授業外学修指示		
	1	第1章 総論			教科書を使い、予習復習を行う。		
	2	第2章 日本の理容業・美容業の歴史			教科書を使い、予習復習を行う。		
	3	第3章ファッション文化史(日本編) 縄文・弥生・古墳時代・古代			教科書を使い、予習復習を行う。		
	4	第3章ファッション文化史(日本編) 中世・近世Ⅰ、Ⅱ・近代			教科書を使い、予習復習を行う。		
	5	第3章ファッション文化史(日本編) 現代Ⅰ、Ⅱ、Ⅲ			教科書を使い、予習復習を行う。		
	6	まとめ①(第1章～第3章 復習、小テスト①実施)			教科書、小テストを使い復習をする事。		
	7	前期末試験、回答・解説			教科書、予習をする事。		
	8	第4章ファッション文化史(西洋編) 古代エジプト～近代Ⅰ			教科書を使い、予習復習を行う。		
	9	第4章ファッション文化史(西洋編) 近代Ⅱ～現代Ⅶ			教科書を使い、予習復習を行う。		
	10	まとめ②(第4章 復習、小テスト②実施)			教科書、小テストを使い復習をする事。		
	11	第5章礼装の種類 和装の礼装・洋装の礼装			教科書を使い、予習復習を行う。		
	12	まとめ③(第4章 復習、小テスト③実施)			教科書、小テストを使い復習をする事。		
	13	まとめ④(国家試験対策)			対策プリントを使い、予習・復習を行う。		
	14	まとめ⑤(国家試験対策)			対策プリントを使い、予習・復習を行う。		
15	後期末試験、回答解説、国家試験対策			対策プリントを使い、復習を行う。			
評価方法	(1)授業の中で小テストを3回実施する。(2)宿題・レポートを数回実施する。(3)定期試験(筆記)を実施する。態度・意欲は、出席・授業中の居眠りの回数などで評価する。以上を下記の観点・割合で評価する。成績評価基準は、S(90点以上)・A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以下)とする。						
		言語情報	知的技能	運動技能	態度・意欲	その他	評価割合
	定期試験	◎					80%
	小テスト	◎					10%
	宿題・レポート	○					5%
	授業態度				○		5%
履修上の注意							

科目名	美容技術理論					
科目名(英)	beauty theory					
単位数	—	時間数	90時間	担当者	山口・西依	
実施年度	2019年度	実施時期	通年	実務家教員 担当課目	○	
対象学科・学年	美容科2年生					
授業概要	美容理論の復習を基に、学年末にある国家試験に向けた指導と、業界の求める美容師として理解しておかなければならない基礎知識を徹底して学習していく。国家試験に向けた4択問題を多くに出題解答させ、試験にしっかりと慣れさせる。					
授業形式	講義: ○	演習: △	実習:	実技:	※ 主たる方法:○ その他:△	
学習目標 (到達目標)	言語 情報	知的 技能	運動 技能	態度 意欲	その他	目標
	○					美容師として基本的な道具について説明が出来るようになる。
	○					美容師として基本的な技術について説明が出来るようになる。
		○				美容師としてカラーリングについて理論的に理解できるようになる。
		○				美容師としてパーマーについて理論的に理解できるようになる。
テキスト・教材 参考図書	美容理論教科書・プリント・ノート・筆記用具					
授業計画	回数	授業項目・内容			授業外学修指示	
	1	シャンブーイングの目的と種類と特徴、選び方のポイントを知る			予習・復習・プリントの整理	
	2	スカルプトリートメントの目的 スカルプトリートメントの種類と特徴のポイントを知る			予習・復習・プリントの整理	
	3	コーム ブラシ シザーズの名称・選定法・手入れ法・種類			予習・復習・プリントの整理	
	4	レザー・アイロン・ドライヤー・スチーマー・遠赤外線機・その他の道具の名称・選定法・手入れ法・目的を知る			予習・復習・プリントの整理	
	5	リンス、コンディショナー、トリートメントの違い、役割、成分選び方			予習・復習・プリントの整理	
	6	ベーシックなカット技法 ワンレングスカット グラデーショカット レイヤーカット セიმレングスカットのポイントを知る			予習・復習・プリントの整理	
	7	ヘアカッティングとは シザーズとレザーの扱い方 ヘアカッティングの正しい姿勢 のポイントを知る			予習・復習・プリントの整理	
	8	シザーズ・レザーによるカット技法のポイントを知る			予習・復習・プリントの整理	
	9	パーマメントウェーブ用剤の種類 パーマメントウェーブ用剤に関する注意事項 のポイントを知る			予習・復習・プリントの整理	
	10	パーマメントウェーブの実際 パーマメントアラカルト のポイントを知る			予習・復習・プリントの整理	
	11	ヘアセッティングとは ヘアパーティング ヘアカーリング のポイントを知る			予習・復習・プリントの整理	
	12	ループとウェーブの関係 、カールの種類			予習・復習・プリントの整理	
	13	ヘアセッティング(ローラーカール、バックコーミング、ブロードライ)のポイントを知る			予習・復習・プリントの整理	
	14	ヘアセッティング(アイロンセッティング、アップスタイル)のポイントを知る			予習・復習・プリントの整理	
	15	ヘアカラーリング概論 ヘアカラーの種類のポイントを知る			予習・復習・プリントの整理	
	16	毛髪のアンダートーン～ ヘアカラーリングの注意事項のポイントを知る			予習・復習・プリントの整理	
	17	パーマメントウェーブの歴史と現在 パーマメントウェーブの理論と実際のポ イントを知る			予習・復習・プリントの整理	
	18	ネイル技術のポイントを知る			予習・復習・プリントの整理	
	19	ネイル技術 復習 小テスト			予習・復習・プリントの整理	
	20	和装の礼装についてはしっかりと覚える			予習・復習・プリントの整理	
	21	着付けの一般的要領・注意事項は重要ポイントで覚える			予習・復習・プリントの整理	
	22	メイクアップの基本手技～日本髪			予習・復習・プリントの整理	
	23	復習プリント (No. 1～14)			予習・復習・プリントの整理	
	24	理論2復習 エステティック概論 1・2・3・4・5			予習・復習・プリントの整理	
25	マッサージの基本手技を理解させる (テストに出やすい部分)			予習・復習・プリントの整理		

	26	エステティックのマッサージにおける技術手技の理解	予習・復習・プリントの整理				
	27	リップメイク・チークルージュのポイント	予習・復習・プリントの整理				
	28	皮膚の構造を重要項目として覚える(表皮・真皮・付属器官)	予習・復習・プリントの整理				
	29	メイクアップのポイントを覚えているかの確認	予習・復習・プリントの整理				
	30	和装の礼装についてはしっかりと覚える	予習・復習・プリントの整理				
	31	帯・小物の種類は重要ポイントで覚える	予習・復習・プリントの整理				
	32	着付けの一般的要領・注意事項は重要ポイントで覚える	予習・復習・プリントの整理				
	33	着付け技術の一例・結び方の一例を見て手順を覚える	予習・復習・プリントの整理				
	34	男子礼装羽織・袴着付けを中心に重点を覚える	予習・復習・プリントの整理				
	35	和装花嫁の伝統から着付け技術まで覚える	予習・復習・プリントの整理				
	36	ウェディングドレス基本シルエットの種類を覚える	予習・復習・プリントの整理				
	37	日本髪の由来・各部の名称・種類と特徴	予習・復習・プリントの整理				
	38	日本髪と調和・日本髪の装飾品 + プリント	予習・復習・プリントの整理				
	39	日本髪技術の一例・手入れ法・かつらのつけ方	予習・復習・プリントの整理				
	40	国家試験に備えて復習	予習・復習・プリントの整理				
	41	国家試験に備えて復習	予習・復習・プリントの整理				
	42	国家試験に備えて復習	予習・復習・プリントの整理				
	43	国家試験に備えて復習	予習・復習・プリントの整理				
	44	国家試験に備えて復習	予習・復習・プリントの整理				
	45	国家試験に備えて復習	予習・復習・プリントの整理				
評価方法	(1)授業の中で小テストを4回実施する。(2)宿題・レポートを数回実施する。(3)定期試験(筆記)を実施する。以上を下記の観点・割合で評価する。 成績評価基準は、S(90点以上)・A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以下)とする。						
		言語情報	知的技能	運動技能	態度・意欲	その他	評価割合
	定期試験		◎				75%
	小テスト	○	◎				10%
	宿題・レポート				◎		10%
	発表・作品	○					5%
履修上の注意	小テストにて平常点を加点する。毎講義においてプリントを配布するため、それらを保管できるファイル(フラットファイル形式が理想)を購入し、必ずプリントの整理を行っておくこと。						

課目名	運営管理						
課目名(英)							
課目単位数	—	時間数	10時間	担当者	山口隆司		
実施年度	2019	実施時期	後期	実務家教員 担当課目			
対象学科・学年	美容科 2年						
授業概要	運営管理は、よい美容サービスにより顧客満足を実現することで、店を守り発展させていく取り組みをいう。その取り組みの大半は経営者によって行われる。多くの人は従業員として雇用されることでキャリアをスタートさせるのではあるが、経営者の考えていること、目指していることを知っておくことは、従業員として活躍するためにも、将来自ら経営者として成長していくためには重要なことである。この科目では、このような観点から、「①経営者の考え方や経営者が果たす責任・役割」「②雇用する責任や働くうえで求められること」「③顧客を満足させるサービスとは何か、それをどう実現するか」の3点を中心に学びます。						
授業形式	講義:	○	演習:		実習:		
					実技:		
					※ 主たる方法:	○ その他:△	
学習目標 (到達目標)	言語情報	知的技能	運動技能	態度・意欲	その他	目標	
	○					経営に必要な概念や専門用語について説明することができる	
		○				経営に必要な専門用語について正しく活用ができる	
テキスト・教材 参考図書	公益財団法人 日本理容美容教育センター 運営管理						
授業計画	回数	授業項目・内容				授業外学修指示	
	1	第1編 経営者の視点 第1章 経営とは・経営者とは 第2章 美容業の経営について 第3章 資金の管理				教科書の概要範囲を事前の読んでもくこと 授業中に実施する小テストについて復習すること	
	2	第2編 人という資源 従業員としての視点 第1章 人という資源 第2章 健康・安全な職場環境の実現 第3章 従業員としての視点から				教科書の概要範囲を事前の読んでもくこと 授業中に実施する小テストについて復習すること	
	3	第3編 顧客のために 第1章 サービス・デザイン 第2章 マーケティング 第3章 サービスにおける人の役割				教科書の概要範囲を事前の読んでもくこと 授業中に実施する小テストについて復習すること	
	4	総復習小テストと解説				教科書、小テストを復習しておくこと	
	5	総復習小テストと解説				教科書、小テストを復習しておくこと	
	6						
	7						
	8						
	9						
	10						
	11						
	12						
	13						
	14						
	15						
評価方法	(1)授業の中で小テストを毎回実施する。(2)定期試験(筆記)を実施する。(3)総復習小テストを実施する。 成績評価基準は、S(90点以上)・A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以下)						
		言語情報	知的技能	運動技能	態度・意欲	その他	評価割合
	定期試験	◎					90%
	小テスト	○					10%
履修上の注意	教科書の内容や専門用語は、将来、実務に従事する際に必ず要求されるものです。正確に理解し、正しく活用できるように学習を進めてください。						

課目名	美容実習					
課目名(英)	Beauty Training					
課目単位数	—	時間数	480時間	担当者	武田・西依・吉田・渡邊・遠藤	
実施年度	2019年度	実施時期	通年	実務家教員 担当課目	○	
対象学科・学年	美容科 2年次					
授業概要	国家試験合格に向けて課題である美容技術の基礎(ワインディング・オールウェーブ・カット)を身に付ける。 衛生面でも国家試験評価対象となっている為、衛生面も同時に身に付ける。					
授業形式	講義:	演習: △	実習: ○	実技: △	※ 主たる方法:○ その他:△	
学習目標 (到達目標)	言語 情報	知的 技能	運動 技能	態度 意欲	その他	目標
			○			国家試験第一課題(レイヤーカット)を身に付ける事ができる。
			○			国家試験第二課題(オールウェーブ)を身に付ける事ができる。
	○					頭の形を理解し正確に形として仕上げる事ができる。
			○			道具の使用の仕方、ウィッグの使い方を丁寧にを行い衛生面を綺麗に保つことができる。 美容師国家試験合格に向けて意欲を高く持ち、継続的に練習する事ができる。
テキスト・教材 参考図書	・美容道具一式 ・衛生管理道具一式					
	回数	授業項目・内容			授業外学修指示	
	1	国家試験第2課題オールウェーブ(コームの使い方・ローション塗布の仕方)				
	2	国家試験第2課題オールウェーブ(コームの使い方・ローション塗布の仕方)				
	3	国家試験第2課題オールウェーブ 7段構成理解			居残り練習を行う ウィッグを持ち帰り復習する	
	4	国家試験第2課題オールウェーブ 7段構成理解			居残り練習を行う ウィッグを持ち帰り復習する	
	5	国家試験第2課題オールウェーブ 7段構成理解			居残り練習を行う ウィッグを持ち帰り復習する	
	6	国家試験第2課題オールウェーブ 7段構成理解			居残り練習を行う ウィッグを持ち帰り復習する	
	7	国家試験第2課題オールウェーブ 7段構成理解			居残り練習を行う ウィッグを持ち帰り復習する	
	8	国家試験第2課題オールウェーブ 7段構成理解			居残り練習を行う ウィッグを持ち帰り復習する	
	9	国家試験第2課題オールウェーブ 7段構成理解			居残り練習を行う ウィッグを持ち帰り復習する	
	10	国家試験第2課題ワインディング 20分巻き			居残り練習を行う ウィッグを持ち帰り復習する	
	11	国家試験第2課題ワインディング 20分巻き			居残り練習を行う ウィッグを持ち帰り復習する	
	12	国家試験第2課題ワインディング 20分巻き			居残り練習を行う ウィッグを持ち帰り復習する	
	13	国家試験第2課題オールウェーブ 7段構成理解			居残り練習を行う ウィッグを持ち帰り復習する	
	14	国家試験第2課題オールウェーブ 7段構成理解			居残り練習を行う ウィッグを持ち帰り復習する	
	15	国家試験第2課題オールウェーブ 7段構成理解			居残り練習を行う ウィッグを持ち帰り復習する	
	16	国家試験第2課題ワインディング 20分巻き			居残り練習を行う ウィッグを持ち帰り復習する	
	17	国家試験第2課題ワインディング 20分巻き			居残り練習を行う ウィッグを持ち帰り復習する	
	18	国家試験第2課題ワインディング 20分巻き			居残り練習を行う ウィッグを持ち帰り復習する	
	19	国家試験第2課題ワインディング 20分巻き			居残り練習を行う ウィッグを持ち帰り復習する	
	20	国家試験第2課題オールウェーブ 7段構成理解			居残り練習を行う ウィッグを持ち帰り復習する	
	21	国家試験第2課題オールウェーブ 7段構成理解			居残り練習を行う ウィッグを持ち帰り復習する	
	22	国家試験第2課題ワインディング 20分巻き			居残り練習を行う ウィッグを持ち帰り復習する	
	23	国家試験第2課題ワインディング 20分巻き			居残り練習を行う ウィッグを持ち帰り復習する	
	24	国家試験第2課題ワインディング 20分巻き			居残り練習を行う ウィッグを持ち帰り復習する	
	25	国家試験第2課題ワインディング 20分巻き			居残り練習を行う ウィッグを持ち帰り復習する	
	26	国家試験第2課題オールウェーブ 7段構成理解			居残り練習を行う ウィッグを持ち帰り復習する	
	27	国家試験第2課題オールウェーブ 7段構成理解			居残り練習を行う ウィッグを持ち帰り復習する	
	28	国家試験第2課題オールウェーブ 7段構成理解			居残り練習を行う ウィッグを持ち帰り復習する	
	29	国家試験第2課題オールウェーブ 7段構成理解			居残り練習を行う ウィッグを持ち帰り復習する	

124	国家試験第2課題オールウェーブ 30分	居残り練習を行う ウィッグを持ち帰り復習する
125	国家試験第2課題オールウェーブ 30分	居残り練習を行う ウィッグを持ち帰り復習する
126	国家試験第2課題オールウェーブ 30分	居残り練習を行う ウィッグを持ち帰り復習する
127	国家試験第2課題ワインディング 20分巻き	居残り練習を行う ウィッグを持ち帰り復習する
128	国家試験第2課題ワインディング 20分巻き	居残り練習を行う ウィッグを持ち帰り復習する
129	国家試験第2課題ワインディング・オールウェーブ テスト	居残り練習を行う ウィッグを持ち帰り復習する
130	国家試験第2課題ワインディング・オールウェーブ テスト	居残り練習を行う ウィッグを持ち帰り復習する
131	国家試験第2課題ワインディング・オールウェーブ テスト	居残り練習を行う ウィッグを持ち帰り復習する
132	国家試験第1課題レイヤーカット(手順)	手順の確認(復習)
133	国家試験第1課題レイヤーカット(手順)	手順の確認(復習)
134	国家試験第1課題レイヤーカット(手順)	手順の確認(復習)
135	国家試験第1課題レイヤーカット(手順)	手順の確認(復習)
136	国家試験第1課題レイヤーカット(手順)	手順の確認(復習)
137	国家試験第2課題ワインディング 20分巻き	居残り練習を行う ウィッグを持ち帰り復習する
138	国家試験第2課題ワインディング 20分巻き	居残り練習を行う ウィッグを持ち帰り復習する
139	国家試験第1課題レイヤーカット	居残り練習をし手順の確認/タイム追い
140	国家試験第2課題レイヤーカット	居残り練習をし手順の確認/タイム追い
141	国家試験第3課題レイヤーカット	居残り練習をし手順の確認/タイム追い
142	国家試験第4課題レイヤーカット	居残り練習をし手順の確認/タイム追い
143	国家試験第5課題レイヤーカット	居残り練習をし手順の確認/タイム追い
144	国家試験第6課題レイヤーカット	居残り練習をし手順の確認/タイム追い
145	国家試験第7課題レイヤーカット	居残り練習をし手順の確認/タイム追い
146	国家試験第8課題レイヤーカット	居残り練習をし手順の確認/タイム追い
147	国家試験第2課題オールウェーブ 25分	居残り練習を行う ウィッグを持ち帰り復習する
148	国家試験第2課題オールウェーブ 25分	居残り練習を行う ウィッグを持ち帰り復習する
149	国家試験第2課題オールウェーブ 25分	居残り練習を行う ウィッグを持ち帰り復習する
150	国家試験第1課題レイヤーカット	居残り練習をし手順の確認/タイム追い
151	国家試験第1課題レイヤーカット	居残り練習をし手順の確認/タイム追い
152	国家試験第2課題オールウェーブ 25分	居残り練習を行う ウィッグを持ち帰り復習する
153	国家試験第2課題オールウェーブ 25分	居残り練習を行う ウィッグを持ち帰り復習する
154	国家試験課題練習	課題発表後、課題に対して予習復習を行い規定の時間内に合格レベルの作品を仕上げる計画を練る。
155	国家試験課題練習	居残り練習か各自ウィッグを持ち帰り試験タイムで復習を行う
156	国家試験課題練習	居残り練習か各自ウィッグを持ち帰り試験タイムで復習を行う
157	国家試験課題練習	居残り練習か各自ウィッグを持ち帰り試験タイムで復習を行う
158	国家試験課題練習	居残り練習か各自ウィッグを持ち帰り試験タイムで復習を行う
159	国家試験課題練習	居残り練習か各自ウィッグを持ち帰り試験タイムで復習を行う
160	国家試験課題練習	居残り練習か各自ウィッグを持ち帰り試験タイムで復習を行う
161	国家試験課題練習	居残り練習か各自ウィッグを持ち帰り試験タイムで復習を行う
162	国家試験課題練習	居残り練習か各自ウィッグを持ち帰り試験タイムで復習を行う
163	国家試験課題練習	居残り練習か各自ウィッグを持ち帰り試験タイムで復習を行う
164	国家試験課題練習	居残り練習か各自ウィッグを持ち帰り試験タイムで復習を行う
165	国家試験課題練習	居残り練習か各自ウィッグを持ち帰り試験タイムで復習を行う
166	国家試験課題練習	居残り練習か各自ウィッグを持ち帰り試験タイムで復習を行う
167	国家試験課題練習	居残り練習か各自ウィッグを持ち帰り試験タイムで復習を行う
168	国家試験課題練習	居残り練習か各自ウィッグを持ち帰り試験タイムで復習を行う
169	国家試験課題練習	居残り練習か各自ウィッグを持ち帰り試験タイムで復習を行う
170	国家試験課題練習	居残り練習か各自ウィッグを持ち帰り試験タイムで復習を行う

218	国家試験課題練習	居残り練習か各自ウィッグを持ち帰り試験タイムで復習を行う					
219	国家試験課題練習	居残り練習か各自ウィッグを持ち帰り試験タイムで復習を行う					
220	国家試験課題練習	居残り練習か各自ウィッグを持ち帰り試験タイムで復習を行う					
221	国家試験課題練習	居残り練習か各自ウィッグを持ち帰り試験タイムで復習を行う					
222	国家試験課題練習	居残り練習か各自ウィッグを持ち帰り試験タイムで復習を行う					
223	国家試験課題練習	居残り練習か各自ウィッグを持ち帰り試験タイムで復習を行う					
224	国家試験課題練習	居残り練習か各自ウィッグを持ち帰り試験タイムで復習を行う					
225	国家試験課題練習	居残り練習か各自ウィッグを持ち帰り試験タイムで復習を行う					
226	国家試験課題練習 テスト	居残り練習か各自ウィッグを持ち帰り試験タイムで復習を行う					
227	国家試験課題練習 テスト	居残り練習か各自ウィッグを持ち帰り試験タイムで復習を行う					
228	国家試験課題練習	居残り練習か各自ウィッグを持ち帰り試験タイムで復習を行う					
229	国家試験課題練習	居残り練習か各自ウィッグを持ち帰り試験タイムで復習を行う					
230	国家試験課題練習	居残り練習か各自ウィッグを持ち帰り試験タイムで復習を行う					
231	国家試験課題練習	居残り練習か各自ウィッグを持ち帰り試験タイムで復習を行う					
232	国家試験課題練習	居残り練習か各自ウィッグを持ち帰り試験タイムで復習を行う					
233	国家試験課題練習	居残り練習か各自ウィッグを持ち帰り試験タイムで復習を行う					
234	国家試験課題練習	居残り練習か各自ウィッグを持ち帰り試験タイムで復習を行う					
235	国家試験課題練習	居残り練習か各自ウィッグを持ち帰り試験タイムで復習を行う					
236	国家試験課題練習	居残り練習か各自ウィッグを持ち帰り試験タイムで復習を行う					
237	国家試験課題練習	居残り練習か各自ウィッグを持ち帰り試験タイムで復習を行う					
238	国家試験課題練習	居残り練習か各自ウィッグを持ち帰り試験タイムで復習を行う					
239	国家試験課題練習	居残り練習か各自ウィッグを持ち帰り試験タイムで復習を行う					
240	国家試験課題練習	居残り練習か各自ウィッグを持ち帰り試験タイムで復習を行う					
評価方法	前期・後期末試験実施(実技) 課題に対する理解度。 授業態度の評価。 成績評価基準⇒S(90点以上)・A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以下)						
		言語情報	知的技能	運動技能	態度・意欲	その他	評価割合
	定期試験			◎	○		70%
	小テスト			◎	○		20%
	宿題・レポート				◎		10%
履修上の注意							

課目名	メイクアップ						
課目名(英)	Makeup						
課目単位数	—	時間数	30時間	担当者	藤山 奈美		
実施年度	2019年度	実施時期	前期	実務家教員 担当課目	○		
対象学科・学年	美容科2年						
授業概要	1年生で学んだメイクアップのベーシックテクニックを基に、サロンに就職した際に必要とされる、お客様一人一人に合うイメージに沿ったメイクや、似合うメイクの提案ができる。特殊メイク、ステージメイク等のプロフェッショナルなメイクができるようになる。						
授業形式	講義:	演習:	実習: ○	実技:	※ 主たる方法:○ その他:△		
学習目標 (到達目標)	言語 情報	知的 技能	運動 技能	態度 意欲	その他	目標	
			○			机上が清潔で、モデルの扱いが丁寧にできる。	
			○			メイクアップのデザインができる。	
			○			顔の輪郭、パーツの分析ができる。	
			○			モデルの個性に合わせたメイクの提案ができる。	
		○			応用テクニックを理解し、施す事ができる。		
テキスト・教材 参考図書							
授業計画	回数	授業項目・内容			授業外学修指示		
	1~2	1年時復習、メイクアップデザイン			シュウウエムラテキストを読んでおくこと		
	3~4	メイクアップデザイン2ーキュート、クールメイク			シュウウエムラテキストを読んでおくこと		
	5~6	メイクアップデザイン3ーエレガント、フレッシュメイク			シュウウエムラテキストを読んでおくこと		
	7~8	応用メイクーメイク提案			シュウウエムラテキストを読んでおくこと		
	9~10	ステージメイクーベースメイク、ポイントメイク			雑誌等でステージメイクを見ておくこと		
	11~12	特殊メイク			雑誌等で特殊メイクを見ておくこと		
	13~15	実技テスト			復習をしておくこと		
評価方法	(1)授業の中で実施した実技作品を確認する。(2)実技作品のデザイン画を確認する。(3)実技テストを実施する。以上を下記の観点・割合で評価する。 成績評価基準は、S(90点以上)・A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以下)とする。						
		言語情報	知的技能	運動技能	態度・意欲	その他	評価割合
	実技テスト			◎	◎		70%
	作品提出			◎	◎		15%
	デザイン画提出			◎	◎		15%
履修上の注意	作品の仕上がりも大切だが、授業中の態度、意欲を主に評価する。						

課目名	選択 ヘアデザイナーコース (ヘアカット)						
課目名(英)	TONI&GUY FUTURE FOUNDATION						
課目単位数	—	時間数	150時間のうち90時間	担当者	西依 優		
実施年度	2019年	実施時期	前期	実務家教員 担当課目	○		
対象学科・学年	美容科 2年次 ヘアデザイナーコース						
授業概要	世界の人々に支持され続けている世界最高峰の技術を持つTONI&GUYの上級技術(技術理論・ファンダメンタル・プレジジョン・クラシック)を学び、頭の骨格・髪質を加味して似合わせを学習した上でディプロマ取得を目指す。						
授業形式	講義:	演習:	実習: ○	実技:	※ 主たる方法:○ その他:△		
学習目標 (到達目標)	言語情報	知的技能	運動技能	態度意欲	その他	目標	
		○				カットに必要な展開図(スタイルの設計図)を描けるようになる。	
			○			カット&ブローを50分間で仕上げる事が出来るようになる。	
			○			必要最低限のブローの技術を身につける事が出来る。	
			○			スタイル創りに必要な質感調整やバランス取りを学習し、スタイルの幅を広げる事が出来る。	
			○			活躍の場を広げる為の知識・技術を身に付けディプロマを取得する。	
テキスト・教材 参考図書	TONI&GUY フューチャーファンデーション text カット道具一式 ブロー道具一式 TONI&GUY カットウィッグ×10台						
授業計画	回数	授業項目・内容				授業外学修指示	
	1	ファンダメンタル スクエアレイヤー カット ウィッグ配布 試験用ウィッグ選別 コース内容説明				ウィッグ1体目の準備をしておくこと	
	2	ファンダメンタル スクエアレイヤー カット スクエアカット(手順確認) ブロー展示→ブロー練習 テ				ウィッグ1体目の準備をしておくこと	
	3	ファンダメンタル スクエアレイヤー カット スクエアカット(手順確認) ブロー展示→ブロー練習 テ				ウィッグ2体目の準備をしておくこと	
	4	ファンダメンタル スクエアレイヤー カット スクエアカット(50分)試験				ウィッグ3体目の準備をしておくこと	
	5	プレジジョン クラシックグラデーション カット クラシックグラデーションカット展示(SbyS) 手順				ウィッグ1体目の準備をしておくこと	
	6	プレジジョン クラシックグラデーション カット クラシックグラデーションカット(手順確認) ブ				ウィッグ2体目の準備をしておくこと	
	7	プレジジョン クラシックグラデーション カット クラシックグラデーションカット(手順確認) ブ				ウィッグ4体目の準備をしておくこと	
	8	プレジジョン クラシックグラデーション カット クラシックグラデーションカット(50分)試験				ウィッグ5体目の準備をしておくこと	
	9	クラシック ベベルカット ベベルカット展示(SbyS) 手順確認				ウィッグ5体目の準備をしておくこと	
	10	クラシック ベベルカット ベベルカット(手順確認) ブロー展示→ブロー練習 テクスチャ				ウィッグ6体目の準備をしておくこと	
	11	クラシック ベベルカット ベベルカット(手順確認) ブロー展示→ブロー練習 テクスチャ				ウィッグ7体目の準備をしておくこと	
	12	クラシック ベベルカット ベベルカット(50分)試験				ウィッグ8体目の準備をしておくこと	
	13	ファンダメンタル スクエアレイヤー プレジジョン クラシックグラデーション				今まで使用したウィッグの準備をしておくこと	
	14	ファンダメンタル スクエアレイヤー プレジジョン クラシックグラデーション				ウィッグ9体目の準備をしておくこと	
15	ファンデーションコース修了試験				ウィッグ10体目の準備をしておくこと		
評価方法	(1) 授業の中で小テストを3回実施する。 (2) 定期試験(実技試験)を実施する。以上を下記の観点・割合で評価する。 成績評価基準は、S(90点以上)・A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以下)とする。						
		言語情報	知的技能	運動技能	態度・意欲	その他	評価割合
	実技テスト		○	○	○		60%
	小テスト		○	○			40%
履修上の注意							

課目名	ヘアメイクアップアーティストコース(ヘアアレンジ)(フォト)					
課目名(英)	Hair make-up artist course (Hair Arrange)(photo)					
課目単位数	—	時間数	150時間のうち76時間	担当者	吉田 由花子	
実施年度	2019年度	実施時期	前期	実務家教員 担当課目	○	
対象学科・学年	美容科 2年次					
授業概要	ヘアメイクアップアーティストに必要なスタイルづくりの基本となるヘアアレンジ技術、サロンワークで提供するリアルヘア、そのクオリティーを上げるためのクリエイティブワークを幅広く学び、ウィッグやモデル作品制作を実践する。また、フォトシューティングの現場を通してヘアメイクアップアーティストの職業の魅力を体感する。					
授業形式	講義:	演習:	実習: ○	実技:	※ 主たる方法:○ その他:△	
学習目標 (到達目標)	言語情報	知的技能	運動技能	態度意欲	その他	目標
			○			デザインの構造を支える上で欠かせない”結ぶ”テクニックと”留める”テクニックを習得する
			○			一束を使ったクリエイティブデザインを習得する
			○			編み込みのデザインを幅広く学び、習得する
			○			カールを使用したデザインを習得する
			○			クリエイティブ作品を効果的に見せるカラーリングを学び、作品制作で実践する
			○			コンテスト作品をテーマに沿って考え、自分でデザインして形にできる
				○		フォトシューティングの現場を体感して、現場での注意点や動きなどに気づき理解する
テキスト・教材 参考図書	UP STYLE1.2.3!					
授業計画	回数	授業項目・内容			授業外学修指示	
	1	”結ぶ”テクニック クラウン一束からの展開			ヘアアレンジ道具の準備と手入れをしておく事	
	2	”結ぶ”テクニック クラウン一束からの展開			ヘアアレンジ道具の準備と手入れをしておく事	
	3	”結ぶ”テクニック 一束を使ったユニークなデザイン			ヘアアレンジ道具の準備と手入れをしておく事	
	4	”結ぶ”テクニック 一束を使ったユニークなデザイン			前回までの一束テクニックの復習をしておく事	
	5	”留める”テクニック 後頭部にボリュームを出すシニヨン			前回までの一束テクニックの復習をしておく事	
	6	クリエイティブウィッグ作品制作① ブリーチテクニック			作品のデザインシートを完成させておく事	
	7	クリエイティブウィッグ作品制作① ブリーチテクニック			作品のデザインシートを完成させておく事	
	8	クリエイティブウィッグ作品制作① カラーリング(ロコル)テクニック			作品のデザインシートを完成させておく事	
	9	小テスト1 クリエイティブウィッグ作品制作			小テストの練習をしておく事	
	10	カールを使用したデザイン			フォトシューティングモデルハントの実施とデザインの考案を進めておく事	
	11	編み込みのデザイン			フォトシューティングモデルハントの実施とデザインの考案を進めておく事	
	12	編み込みのデザイン			フォトシューティングモデルハントの実施とデザインの考案を進めておく事	
	13	編み込みのデザイン			フォトシューティングモデルハントの実施とデザインの考案を進めておく事	
	14	アンデュレートな質感をもつクリエイティブスタイル			作品のデザインシートを完成させておく事	
	15	クリエイティブウィッグ作品制作②練習			作品のデザインシートを完成させておく事	
	16	クリエイティブウィッグ作品制作②練習			作品のデザインシートを完成させておく事	
	17	小テスト2 クリエイティブウィッグ作品制作②			小テストの練習をしておく事	
	18	フォトシューティング企画書作成			フォトシューティングのモデルを決定させておく事	
	19	フォトシューティング仕込み・練習 モデル来校あり			フォトシューティングの企画書を完成させておく事	
	20	フォトシューティング仕込み・練習 モデル来校あり			フォトシューティングの企画書を完成させておく事	
	21	フォトシューティング仕込み・練習 モデル来校あり			フォトシューティングの企画書を完成させておく事	
	22	フォトシューティング仕込み・練習 モデル来校あり			フォトシューティングの企画書を完成させておく事	
	23	フォトシューティング仕込み・練習 モデル来校あり			フォトシューティングの企画書を完成させておく事	
	24	フォトシューティング仕込み・練習 モデル来校あり			フォトシューティングの企画書を完成させておく事	
25	フォトシューティング 仕込み・撮影アシスタント・準備			フォトシューティングスタイルの練習をしておく事		

	26	フォトシューティング 仕込み・撮影アシスタント・準備	フォトシューティングスタイルの練習をしておく事				
	27	フォトシューティング 仕込み・撮影アシスタント・準備	フォトシューティングスタイルの練習をしておく事				
	28	フォトシューティング 仕込み・撮影アシスタント・準備	フォトシューティングスタイルの練習をしておく事				
	29	フォトシューティング 仕込み・撮影アシスタント・準備	フォトシューティングスタイルの練習をしておく事				
	30	フォトシューティング 仕込み・撮影アシスタント・準備	フォトシューティングスタイルの練習をしておく事				
	31	クリエイティブウィッグ作品制作③	作品のデザインシートを完成させておく事				
	32	クリエイティブウィッグ作品制作③	作品のデザインシートを完成させておく事				
	33	クリエイティブウィッグ作品制作④	コンテスト審査員のリサーチと切り抜き収集をしておく事				
	34	クリエイティブウィッグ作品制作④	コンテスト審査員のリサーチと切り抜き収集をしておく事				
	35	クリエイティブウィッグ作品制作④	コンテスト審査員のリサーチと切り抜き収集をしておく事				
	36	クリエイティブウィッグ作品制作④	コンテスト審査員のリサーチと切り抜き収集をしておく事				
	37	クリエイティブウィッグ作品制作④	コンテスト審査員のリサーチと切り抜き収集をしておく事				
	38	実技テスト クリエイティブウィッグ作品制作④	コンテスト審査員のリサーチと切り抜き収集をしておく事				
評価方法	(1)授業の中で小テストを2回実施する。(2)宿題・企画書を数回実施する。(3)実技テストを実施する。(4)作品制作・発表を数回実施する。 以上を下記の観点・割合で評価する。 成績評価基準は、S(90点以上)・A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以下)とする。						
		言語情報	知的技能	運動技能	態度・意欲	その他	評価割合
	実技テスト			◎	○		40%
	小テスト			◎	○		10%
	宿題・企画書				○		10%
	発表・作品			◎	○		40%
履修上の注意							

課題名		ヘアメイクアップアーティストコース(エアブラシ)					
課題名(英)		Hair make-up artist course (airbrush)					
課題単位数	—	時間数	150時間のうち24時間	担当者	重松愛子		
実施年度	2019年度	実施時期	通年	実務家教員担当科目	○		
対象学科・学年		美容科 2年次					
授業概要		皮膚知識と化粧品学を熟知し、テクニックと機器の取り扱い～メンテナンス(部品解体～組み立てまで)を習得する。					
授業形式		講義: △	演習:	実習: ○	実技:	※ 主たる方法:○ その他:△	
学習目標 (到達目標)	言語情報	知的技能	運動技能	態度意欲	その他	目標	
			○			ハンドピースの基本操作を習得する	
			○			カラーチェンジのカップ操作がスムーズにできる	
			○			ステンシルを用い、ポイントメイクアップが施せるようになる	
		△	○			用具の名称を理解し、メンテナンスが出来るようになる(解体から～組み立てまで)	
		○				肌(スキントイプ)と化粧品について理解し、知識を深める	
		○				エアブラシメイクテクニック～メリットを学び、知識を深める	
テキスト・教材参考図書		HALLYWOOD AIR Airbrush Makeup Basic Textbook for School Partner					
授業計画	回数	授業項目・内容			授業外学修指示		
	1・2	エアブラシ①②教材説明。教材確認。教科書P1～P7ハリウッドエアの特徴、エアブラシメイクアップのメリット、メイクアップアーティストとしての心構え(筆記試験対策)練習用ペーパー使用・・・様々な形にエアブラシで塗ってみる・カラーチェンジのカップ操作 教科書P8～10 エアブラシの使い方 ①持ち方 ②エアのコントロール ③距離によるコントロール ④洗浄 (筆記試験対策)			事前にエアブラシの特徴を読んでおくこと 筆記試験範囲の復習 道具忘れに注意(特に教科書)		
	3・4	エアブラシ③④練習用ペーパー使用・・・様々な形にエアブラシで塗ってみる・カラーチェンジのカップ操作 教科書P8～10 エアブラシの使い方 ①持ち方 ②エアのコントロール ③距離によるコントロール ④洗浄			筆記試験範囲の復習 道具忘れに注意(特に教科書)		
	5・6	エアブラシ⑤⑥スキンドール使用&相モデル 前までの復習。教科書P19～25 カラーmixのカップチェンジの練習。 ファンデーション～チークまで (筆記試験対策)			筆記試験範囲の復習 道具忘れに注意(特に教科書)		
	7・8	エアブラシ⑦⑧ 教科書P26～28 ステンシルの使い方 ①アイブロウ(カラーmixの比率によるカラーバリエーション ステンシルでアイブローを作る。(筆記試験対策)			筆記試験範囲の復習 道具忘れに注意(特に教科書)		
	9・10	エアブラシ⑨⑩ 教科書P29～31 アイシャドウ&リップ エアブラシでアイシャドウとリップを作る。 フルメイクアップ モデルに似合うメイクアップを施す。(筆記試験対策)			筆記試験範囲の復習 道具忘れに注意(特に教科書)		
	11・12	エアブラシ⑪⑫ デイプロマ取得本試験(相モデル) ・筆記試験50分 実技試験50分 合格の場合:デイプロマ授与 不合格の場合:再試			筆記試験範囲の復習 体調管理に気を付ける		
評価方法	(1)授業の中で実技テスト・筆記テストを実施しデイプロマを取得する。(2)授業態度として道具の手入れや出席率など積極的に取り組んでいること。以上を下記の観点・割合で評価する。 S(90点以上)、A(80点以上)、B(70点以上)、C(60点以上)、D(59点以下)とする。						
		言語情報	知的技能	運動技能	態度・意欲	その他	評価割合
	実技テスト			◎			50%
	筆記テスト		○				35%
	宿題・レポート						
	発表・作品			○			10%
	授業態度						
所作・道具の手入れ			○			5%	
履修上の注意		出席が4/5に満たない場合は実技試験の受験資格を与えない。					



- 科目名を記入します。学則と相違がないように確認してください。
 - 任意で記入してください。
 - 単位数、時間数、科目を指導する教員の名前を記入してください。単位数・時間数は学則と相違がないように確認してください。
 - 実施される年度、時期(前期・後期・通年)を記入してください。実務家教員の担当科目には「○」を記入してください。
 - 対象となるクラスを記入してください。複数の場合は区切り文字「・」を使用してください。
 - 授業科目の概要を記入してください。(カリキュラム上の位置付け・主な学習項目など)
-
- 該当する授業形式に○を記入してください。複数の形式を併用する場合は、主たる方法に○、その他に△を記入してください。(職業実践専門課程の様式4(3)と一致)
 - 授業科目の到達目標を分かりやすく記入してください。DP/CPとの対応関係を到達目標として反映させてください。
「言語情報」「知的技能」「運動技能」「態度」の4分類のどの分類に該当する目標なのかを選び、○を記入してください。
-
- 使用するテキストや参考となる書籍を記入してください。Webページの場合はURLを記入してください。テキストを使用しない場合は、空欄とせず、「なし」と記入してください。
 - 授業で取り扱う内容を各回ごとに記入してください。
-
- 評価の方法を具体的に記入してください。定期試験については、筆記試験・口述試験・実技試験など実施方法を記入してください。
学習目標(到達目標)で選択した分類「言語情報」「知的技能」「運動技能」「態度」に対応させ、◎または○を記入してください。
-
- 上記以外で受講生に伝えることがある際には記入してください。



致させる)

ださい。

課目名	ヘアメイクアップアーティストコース(メイクアップ)(フォト)						
課目名(英)	Hair make-up artist course (make up)						
課目単位数	—	時間数	150時間のうち30時間	担当者	重松愛子		
実施年度	2019年度	実施時期	前期	実務家教員 担当課目	○		
対象学科・学年	美容科 2年次						
授業概要	①撮影の為のメイクアップスキルを身に付け、テクニックの幅を広げ、就職後の即戦力とする。また結婚式や成人式などの記念日での写真撮影の仕込みが出来るメイクアップスキルを学び身に付ける。						
授業形式	講義:	演習:	実習: ○	実技: △	※ 主たる方法:○ その他:△		
学習目標 (到達目標)	言語 情報	知的 技能	運動 技能	態度 意欲	その他	目標	
			○			撮影時の当日の流れを組み立て、スケジュール管理ができるノウハウを習得する	
			○			質感の調整やシーンに合わせた撮影のメイクアップを習得する。	
			○	△		実技中の所作や道具の取り扱いに注意を払うことが出来る。	
テキスト・教材 参考図書	①The Art of Makeup/Kevyn Aucoin ②ヘアモード ③ Style ④TONI&GUY、などの美容雑誌						
授業計画	回数	授業項目・内容				授業外学修指示	
	1. 2	フォトシューティングとは メイクアップのポイント。ベースメイクアップの大切さ。 ①ベースメイクアップ順序 ②コンシーラーテクニック				道具忘れに注意	
	3. 4	コントロールカラーとコンシーラーテクニック。照明(ライト&自然光)による肌の質感。マット&光沢の差 ①ファンデーションをブラシで塗布する ②パウダーをブラシで付ける				道具忘れに注意	
	5. 6	<ポイントメイクアップ> アイシャドー&ブラックライナー(インサイドライン)&マスカラ				道具忘れに注意	
	7. 8	<ポイントメイクアップ> チーク&リップ 肌の色とチークカラー、リップカラーセレクトの仕方 メイクアップ方法				道具忘れに注意	
	9. 10	美容雑誌の中から、作品をピックアップしてタッチアップする。実際、自然光&スマートフォンで撮影する。				道具忘れに注意	
	11 12	ブロンザーとシェーディングの違い。 ・①ブロンザーで日焼け肌を作る。②シェーディングで小顔に見せる。 ハイライトによるコントラストでメリハリをつける。				道具忘れに注意	
	13 14 15	実技試験:①作品制作...企画書作成~タッチアップ。 ~ 作品撮り~チェック&修正 ※クオリティー重視 10. (3コマ)相モデル 実技試験 制作時間50分				道具忘れに注意 自己管理に気を付けること	
	(1)授業の中で実技テストを実施する。(2)作品制作の完成度による。(3)所作・道具の手入れなど実技テストの際にテスト項目とする。 以上を下記の観点・割合で評価する。 S(90点以上)、A(80点以上)、B(70点以上)、C(60点以上)、D(59点以下)とする。						
	評価方法		言語情報	知的技能	運動技能	態度・意欲	その他
実技テスト				◎			50%
発表・作品				◎	○		40%
所作・道具の手入れ					○		10%
履修上の注意	出席が4/5に満たない場合は実技試験の受験資格を与えない。						



- 科目名を記入します。学則と相違がないように確認してください。
 - 任意で記入してください。
 - 単位数、時間数、科目を指導する教員の名前を記入してください。単位数・時間数は学則と相違がないように確認してください。
 - 実施される年度、時期(前期・後期・通年)を記入してください。実務家教員の担当科目には「○」を記入してください。
 - 対象となるクラスを記入してください。複数の場合は区切り文字「・」を使用してください。
 - 授業科目の概要を記入してください。(カリキュラム上の位置付け・主な学習項目など)
- 該当する授業形式に○を記入してください。複数の形式を併用する場合は、主たる方法に○、その他に△を記入してください。(職業実践専門課程の場合)
- 授業科目の到達目標を分かりやすく記入してください。DP/CPとの対応関係を到達目標として反映させてください。
「言語情報」「知的技能」「運動技能」「態度」の4分類のどの分類に該当する目標なのかを選び、○を記入してください。
- 使用するテキストや参考となる書籍を記入してください。Webページの場合はURLを記入してください。テキストを使用しない場合は、空欄とせず、「なし」と記入してください。
- 授業で取り扱う内容を各回ごとに記入してください。
- 評価の方法を具体的に記入してください。定期試験については、筆記試験・口述試験・実技試験など実施方法を記入してください。
学習目標(到達目標)で選択した分類「言語情報」「知的技能」「運動技能」「態度」に対応させ、◎または○を記入してください。
- 上記以外で受講生に伝えることがある際には記入してください。

様式4(3)と一致させる)

」と記入してください。

課目名	ヘアメイクアップアーティストコース(ヘアアレンジ)(フォト)					
課目名(英)	Hair make-up artist course (Hair Arrange)(photo)					
課目単位数	—	時間数	150時間のうち76時間	担当者	吉田 由花子	
実施年度	2019年度	実施時期	前期	実務家教員 担当課目	○	
対象学科・学年	美容科 2年次					
授業概要	ヘアメイクアップアーティストに必要なスタイルづくりの基本となるヘアアレンジ技術、サロンワークで提供するリアルヘア、そのクオリティーを上げるためのクリエイティブワークを幅広く学び、ウィッグやモデル作品制作を実践する。また、フォトシューティングの現場を通してヘアメイクアップアーティストの職業の魅力を体感する。					
授業形式	講義:	演習:	実習: ○	実技:	※ 主たる方法:○ その他:△	
学習目標 (到達目標)	言語情報	知的技能	運動技能	態度意欲	その他	目標
			○			デザインの構造を支える上で欠かせない”結ぶ”テクニックと”留める”テクニックを習得する
			○			一束を使ったクリエイティブデザインを習得する
			○			編み込みのデザインを幅広く学び、習得する
			○			カールを使用したデザインを習得する
			○			クリエイティブ作品を効果的に見せるカラーリングを学び、作品制作で実践する
			○			コンテスト作品をテーマに沿って考え、自分でデザインして形にできる
				○		フォトシューティングの現場を体感して、現場での注意点や動きなどに気づき理解する
テキスト・教材 参考図書	UP STYLE1.2.3!					
授業計画	回数	授業項目・内容			授業外学修指示	
	1	”結ぶ”テクニック クラウン一束からの展開			ヘアアレンジ道具の準備と手入れをしておく事	
	2	”結ぶ”テクニック クラウン一束からの展開			ヘアアレンジ道具の準備と手入れをしておく事	
	3	”結ぶ”テクニック 一束を使ったユニークなデザイン			ヘアアレンジ道具の準備と手入れをしておく事	
	4	”結ぶ”テクニック 一束を使ったユニークなデザイン			前回までの一束テクニックの復習をしておく事	
	5	”留める”テクニック 後頭部にボリュームを出すシニヨン			前回までの一束テクニックの復習をしておく事	
	6	クリエイティブウィッグ作品制作① ブリーチテクニック			作品のデザインシートを完成させておく事	
	7	クリエイティブウィッグ作品制作① ブリーチテクニック			作品のデザインシートを完成させておく事	
	8	クリエイティブウィッグ作品制作① カラーリング(ロコル)テクニック			作品のデザインシートを完成させておく事	
	9	小テスト1 クリエイティブウィッグ作品制作			小テストの練習をしておく事	
	10	カールを使用したデザイン			フォトシューティングモデルハントの実施とデザインの考案を進めておく事	
	11	編み込みのデザイン			フォトシューティングモデルハントの実施とデザインの考案を進めておく事	
	12	編み込みのデザイン			フォトシューティングモデルハントの実施とデザインの考案を進めておく事	
	13	編み込みのデザイン			フォトシューティングモデルハントの実施とデザインの考案を進めておく事	
	14	アンデュレートな質感をもつクリエイティブスタイル			作品のデザインシートを完成させておく事	
	15	クリエイティブウィッグ作品制作②練習			作品のデザインシートを完成させておく事	
	16	クリエイティブウィッグ作品制作②練習			作品のデザインシートを完成させておく事	
	17	小テスト2 クリエイティブウィッグ作品制作②			小テストの練習をしておく事	
	18	フォトシューティング企画書作成			フォトシューティングのモデルを決定させておく事	
	19	フォトシューティング仕込み・練習 モデル来校あり			フォトシューティングの企画書を完成させておく事	
	20	フォトシューティング仕込み・練習 モデル来校あり			フォトシューティングの企画書を完成させておく事	
	21	フォトシューティング仕込み・練習 モデル来校あり			フォトシューティングの企画書を完成させておく事	
	22	フォトシューティング仕込み・練習 モデル来校あり			フォトシューティングの企画書を完成させておく事	
	23	フォトシューティング仕込み・練習 モデル来校あり			フォトシューティングの企画書を完成させておく事	
	24	フォトシューティング仕込み・練習 モデル来校あり			フォトシューティングの企画書を完成させておく事	
25	フォトシューティング 仕込み・撮影アシスタント・準備			フォトシューティングスタイルの練習をしておく事		

	26	フォトシューティング 仕込み・撮影アシスタント・準備	フォトシューティングスタイルの練習をしておく事				
	27	フォトシューティング 仕込み・撮影アシスタント・準備	フォトシューティングスタイルの練習をしておく事				
	28	フォトシューティング 仕込み・撮影アシスタント・準備	フォトシューティングスタイルの練習をしておく事				
	29	フォトシューティング 仕込み・撮影アシスタント・準備	フォトシューティングスタイルの練習をしておく事				
	30	フォトシューティング 仕込み・撮影アシスタント・準備	フォトシューティングスタイルの練習をしておく事				
	31	クリエイティブウィッグ作品制作③	作品のデザインシートを完成させておく事				
	32	クリエイティブウィッグ作品制作③	作品のデザインシートを完成させておく事				
	33	クリエイティブウィッグ作品制作④	コンテスト審査員のリサーチと切り抜き収集をしておく事				
	34	クリエイティブウィッグ作品制作④	コンテスト審査員のリサーチと切り抜き収集をしておく事				
	35	クリエイティブウィッグ作品制作④	コンテスト審査員のリサーチと切り抜き収集をしておく事				
	36	クリエイティブウィッグ作品制作④	コンテスト審査員のリサーチと切り抜き収集をしておく事				
	37	クリエイティブウィッグ作品制作④	コンテスト審査員のリサーチと切り抜き収集をしておく事				
	38	実技テスト クリエイティブウィッグ作品制作④	コンテスト審査員のリサーチと切り抜き収集をしておく事				
評価方法	(1)授業の中で小テストを2回実施する。(2)宿題・企画書を数回実施する。(3)実技テストを実施する。(4)作品制作・発表を数回実施する。 以上を下記の観点・割合で評価する。 成績評価基準は、S(90点以上)・A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以下)とする。						
		言語情報	知的技能	運動技能	態度・意欲	その他	評価割合
	実技テスト			◎	○		40%
	小テスト			◎	○		10%
	宿題・企画書				○		10%
	発表・作品			◎	○		40%
履修上の注意							

課目名	Styling Map						
課目名(英)	Styling Map						
課目単位数	—	時間数	150時間のうち20時間	担当者	伊藤久美子		
実施年度	2019年度	実施時期	通年	実務家教員 担当課目			
対象学科・学年	美容科2年生【ヘアメイクアップアーティストコース】						
授業概要	美容業界ではパーソナル(その人の個人に向けた)スタイリング提案がサービスの差別化の中心となっています。そのパーソナルに向けたスタイリング=完成の提案を論理に基づきお客様だけでなくスタッフ同士での共通言語となるStylingMapを学びます。						
授業形式	講義:	演習: ○	実習:	実技:	※ 主たる方法:○ その他:△		
学習目標 (到達目標)	言語 情報	知的 技能	運動 技能	態度 意欲	その他	目標	
	○					StylingMapの理論を説明することができる。	
		○				スタイリングのカウンセリング力を高め、実践することができる。	
		○				スタイリング提案の基礎を学び、説明することができる。	
				○		スタイリングを言語で伝えることができる。	
テキスト・教材 参考図書	Styling Map検定テキスト、筆記道具、ハサミ						
授業計画	回数	授業項目・内容			授業外学修指示		
	1	Styling Mapとは? 目的、目標、説明/セルフチェック			教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと		
	2	テイスト確認/分析・分類キーワード各種解説			教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと		
	3	復習テスト/色のいろいろ			授業内容に係る確認テストを実施するので、復習しておくこと		
	4	物の色、人の色(分析、解説、カラーカード)			授業内容に係る確認テストを実施するので、復習しておくこと		
	5	人の色(分析目視グループワーク)			授業内容に係る確認テストを実施するので、復習しておくこと		
	6	ウィッグデモンストレーション			授業内容に係る確認テストを実施するので、復習しておくこと		
	7	復習テスト/物の形(分析、解説)			授業内容に係る確認テストを実施するので、復習しておくこと		
	8	人の形(分析目視グループワーク)/物の素材(分析、解説)			授業内容に係る確認テストを実施するので、復習しておくこと		
	9	人の素材(分析、解説、分析目視グループワーク)/復習テスト			授業内容に係る確認テストを実施するので、復習しておくこと		
	10	検定対策			教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと		
	11						
	12						
	13						
	14						
15							
評価方法	(1)授業の中で小テストを数回実施する。(2)プレゼンを実施する。(3)検定試験を実施する。 態度・意欲は、出席・提出物・授業中の居眠りの回数などで評価する 以上を下記の観点・割合で評価する。 成績評価基準は、S(90点以上)・A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以下)とする。						
		言語情報	知的技能	運動技能	態度・意欲	その他	評価割合
	小テスト	○	○				10%
	発表・作品		○		○		10%
	授業態度				○		10%
	検定試験	○	○				70%
履修上の注意	ノーメイク、カラコンを外すことがあります。 実習では自分たちの洋服、小物を持参し使用することがあります。						

課目名	ブライダルスタイリストコース(ブライダルメイク)						
課目名(英)	Bridal stylist course (Bridal make)						
課目単位数	—		時間数	150時間のうち32時間	担当者	坂本こず恵	
実施年度	2019年度		実施時期	前期	実務家教員 担当科目	○	
対象学科・学年	美容科 2年						
授業概要	ブライダルヘアメイクの仕事は、サロンワーク中心の美容師とは仕事内容・必要スキルや知識が全く異なる為、ブライダル業界の知識やホテルや結婚式場の知識、ドレスや着物の知識など、より専門的に学ぶ必要がある。また、結婚式のタイムスケジュールの把握・高い接客力も求められる。この授業ではメイク技術の他、業界知識や和婚の知識なども取り入れながら 実践的に学び知識習得することを目標とする。						
授業形式	講義:	△	演習:		実習:	○	
				実技:		※ 主たる方法:○ その他:△	
学習目標 (到達目標)	言語 情報	知的 技能	運動 技能	態度 意欲	その他	目標	
			○			決められた時間内にフルメイクを仕上げる事ができる。	
			○			10分以内で衣装チェンジに合わせたポイントメイクチェンジができる。	
	○					古典の和装メイクの特徴を説明することができる	
	○					神前式の際の正式な婚礼衣装のしきたりと角隠し・綿帽子の違いを説明することができる	
○					ブライダルメイクカフンセリングにおいてピアリングが必要な事項を5つ以上述べる事ができる		
テキスト・教材 参考図書	・日本理美容教育センター 美容技術理論2 ・日本理美容教育センター 美容実習2 ・リクルートホールディングス 月刊ゼクシィ						
授業計画	回数	授業項目・内容				授業外学修指示	
	1	ウェディングドレスメイクのデモンストレーション ーブライダルメイクと一般的なメイクの違い				ウェディング雑誌・WEBページのチェック	
	2	ウェディングドレスメイク相モデル実習 ーブライダルメイクの特徴を取り入れ仕上げる				ウェディング雑誌・WEBページのチェック	
	3	ウェディングドレスメイク相モデル実習 ーブライダルメイクの特徴を取り入れ仕上げる				ウェディング雑誌・WEBページのチェック	
	4	カクテルドレスメイクのデモンストレーション ーウェディングメイクとカクテルメイクの違い				ウェディング雑誌・WEBページのチェック	
	5	カクテルドレスメイク相モデル実習 ーウェディングメイク→ポイントメイクチェンジの方法				ウェディング雑誌・WEBページのチェック	
	6	カクテルドレスメイク相モデル実習 ーウェディングメイク→ポイントメイクチェンジの方法				ウェディング雑誌・WEBページのチェック	
	7	ウェディングドレスメイク→カクテルドレスメイク 実技テスト1				実技テストを実施するため授業内容の復習	
	8	ウェディングドレスメイク→カクテルドレスメイク 実技テスト1				実技テストを実施するため授業内容の復習	
	9	和婚の知識と和装古典メイクのデモ ー白無垢・色打掛・綿帽子・角隠しについて				筆記テストを実施するため授業内容の復習	
	10	洋和装メイクのデモンストレーション ー現在の神前式のトレンドとヘアメイク				ウェディング雑誌・WEBページのチェック	
	11	洋和装メイク相モデル実習 ー古典や伝統的なデザインを取り入れつつ、トレンドを意識する				ウェディング雑誌・WEBページのチェック	
	12	洋和装メイク相モデル実習 ー古典や伝統的なデザインを取り入れつつ、トレンドを意識する				ウェディング雑誌・WEBページのチェック	
	13	洋和装メイク 実技テスト2 ー和のデザインを取り入れてメイクする				実技テストを実施するため授業内容の復習	
	14	洋和装メイク 実技テスト2 ー和のデザインを取り入れてメイクする				実技テストを実施するため授業内容の復習	
	15	和婚の知識 筆記テスト・作品制作に向けての準備 ー作品メイクデッサン作成				筆記テストを実施するため授業内容の復習	
	16	ブライダルヘア・メイク作品制作 ー自由制作 (和装・ドレスいずれかの作品を作る)				作品制作についての準備	
評価方法	(1)授業の中で実技テスト2回実施。(2)筆記テスト1回実施。(3)ヘアメイク作品制作。 以上を下記の観点・割合で評価する。 成績評価基準は S(90点以上) A(80点以上) B(70点以上) C(60点以上) D(59点以下)とする。						
		言語情報	知的技能	運動技能	態度・意欲	その他	評価割合
	実技テスト			◎			35%
	筆記テスト	◎					35%
	宿題・レポート	◎			○		10%
	発表・作品			◎	○		20%
履修上の注意	デモンストレーション、講義の際にメイクの特徴・ポイントをまとめ、授業後に提出すること。						

課目名	ブライダルスタイリストコース（ブライダルセット）						
課目名(英)							
課目単位数	—		時間数	150時間のうち32時間	担当者	中川 佳代子	
実施年度	2019年度		実施時期	前期	実務家教員 担当科目	○	
対象学科・学年	美容科 2年生						
授業概要	美容師として、サロンワークとは異なるブライダルの専門的な技術習得を目指す。						
授業形式	講義:	演習:	実習: ○	実技: △	※ 主たる方法:○ その他:△		
学習目標 (到達目標)	言語 情報	知的 技能	運動 技能	態度 意欲	その他	目標	
			○			スタイルに合わせた道具を選択して、正しく使用することができる。	
		○	○			スタイルを正確に再現することができる。	
		○	○			イメージに合わせたスタイル作り(トータルコーディネート)ができる。	
テキスト・教材 参考図書							
授業計画	回数	授業項目・内容				授業外学修指示	
	1	1年次ヘアアレンジの復習 - 束結び、編み込み(表・裏)、ローブ編み					
	2	1年次ヘアアレンジの復習 - ビンの止め方、カールアイロンの使い方、フワード・リバースの巻き方					
	3	1年次ヘアアレンジの復習 - ストレートアイロンの使い方、波ウェーブの巻き方、簡単ヘアアレンジ					
	4	シニヨンの作り方 - ホットカーラーの巻き方、たぼ毛の作り方、たぼ毛を使用したシニヨンの作り方					
	5	シニヨンの作り方 - 逆毛の立て方、ホットカーラー・カールアイロンを使用したシニヨンの作り方					
	6	シニヨンの作り方 - スクリューでのシニヨンの作り方、簡単ヘアアレンジ					
	7	夜会巻き - たぼ毛の作り方、夜会巻きの作り方					
	8	夜会巻き - 夜会巻きを使用したヘアアレンジ					
	9	スタイル作り - スタイルを提示してのアレンジレッスン					
	10	スタイル作り - スタイルを提示してのアレンジレッスン					
	11	スタイル作り - イメージに合わせてのアレンジレッスン					
	12	スタイル作り - イメージに合わせてのアレンジレッスン					
	13	ヘアアレンジ実技テスト					
	14	撮影スタイル作り - グループ作り、ドレス選び、グループ打ち合わせ					
	15	撮影スタイル作り - グループでのヘア、メイクレッスン					
16	ヘア&メイク撮影本番						
評価方法	①授業中で実技テストを実施する。②毎時間ごとの作品作りを実施する。 以上を下記の観点・割合で評価する。 成績評価基準は、S(90点以上)・A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以下)とする。						
		言語情報	知的技能	運動技能	態度・意欲	その他	評価割合
	発表・作品		○	○	◎		50%
	実技テスト		○	○	◎		50%
履修上の注意							

課目名	ブライダルスタイリストコース(ブライダル接遇)						
課目名(英)	Bridal Introduction						
単位数	—		時間数	150時間のうち6時間	担当者	中村 直輝	
実施年度	2019年度		実施時期	前期	実務家教員 担当課目	○	
対象学科・学年	美容科 2年生						
授業概要	実際の結婚式での打合せの流れや関わるスタッフ全般を知る事で、ブライダル業界での美容師及び着付けスタッフの仕事内容や環境の理解を深める。また実際に現場で起きているお客様とのトラブルやクレームなどの実例を知る事で美容スタッフとしての心構えや対処法などを学び就職後に生かす。						
授業形式	講義:	○	演習:	△	実習:		
					実技:		
					※ 主たる方法:○ その他:△		
学習目標 (到達目標)	言語 情報	知的 技能	運動 技能	態度 意欲	その他	目標	
	○					ブライダルの知識を深め、挙式・披露宴における美容師の役割を知り、説明することができる	
	○	○				ウエディングプランナーとの式までの準備の流れを把握する。	
		○				式場におけるお客様と美容師のトラブルなどの実例を知り、トラブルを予測することができるようになる	
テキスト・教材 参考図書	・BIA 公益社団法人日本ブライダル文化振興協会 ブライダルコーディネーターテキスト						
授業計画	回数	授業項目・内容				授業外学修指示	
	1	結婚式の基礎知識・美容師の仕事内容					
	2	結婚式場・ドレスショップでの打合せ及びトラブル実例と対処法					
	3	結婚式場及びドレスショップ見学(現役スタッフの講話有)					
評価方法	(1)授業の態度・意欲・姿勢 (2)宿題・レポートを実施する。 以上を下記の観点・割合で評価する。 成績評価基準は、S(90点以上)・A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以下)とする。						
		言語情報	知的技能	運動技能	態度・意欲	その他	評価割合
	宿題・レポート	○	◎				50%
	授業態度・出席状況				◎		50%
履修上の注意							

科目名	ヘアメイクアップアーティストコース(ボディジュエル)						
科目名(英)	Hair make-up artist course (Body jewel)						
単位数	—	時間数	150時間の内6時間	担当者	重松 愛子		
実施年度	2019年度	実施時期	後期	実務家教員 担当科目	○		
対象学科・学年	美容科 2年次						
授業概要	ブライダルやイベント、パーティーシーン、成人式等で華やかな演出ができ、デザイン提案～施術迄が出来るようになる。						
授業形式	講義:	演習: △	実習: ○	実技:	※ 主たる方法:○ その他:△		
学習目標 (到達目標)	言語 情報	知的 技能	運動 技能	態度 意欲	その他	目標	
		△	○			花・蝶・リボン・ハートの様々なデザインを基本に制作することが出来る。	
		△	○			ウエディング、パーティ、成人式等のイベントに限らず、日常・非日常のどのようなシーンでも使用できるボディジュエリー”テクニックを身に着ける	
			○	△		道具の手入れ、片づけなど積極的に取り組むことが出来る	
テキスト・教材 参考図書	ボディジュエリーデザイン画 ボディジュエリー教材一式(シート、鉛筆、アート筆、ラメパウダー、グルー、アセトン、コットン、ビニール)						
授業計画	回数	授業項目・内容				授業外学修指示	
	1. 2	相モデル ボディジュエリーとは。ボディジュエリーのニーズ。教材説明。 花のデザインを転写～グルー塗布～ラメパウダーで仕上げる				道具の手入れを確実に 特にブラシについたグルーの手入れを入念に 行う	
	3. 4	相モデル 簡単な花と蝶を転写～グルーとラメパウダーの使い方。グラ デーションに挑戦(花卉制作)・片付け方 ※ウッドスティックの 使い方				道具の手入れを確実に 特にブラシについたグルーの手入れを入念に 行う	
	5. 6	相モデル(ドール使用併用) ブライダル用ボディジュエリー ウエディングドレスに合わせた白 を基調とした花の制作① ※実技テスト				道具の手入れを確実に 特にブラシについたグルーの手入れを入念に 行う	
評価方法	(1)授業の中で実技テストを実施する。(2)作品の完成度が高いこと。(3)所作を丁寧に行い道具の手入れなど積極的に取り組んでいること。以上を下記の観点・割合で評価する。 S(90点以上)、A(80点以上)、B(70点以上)、C(60点以上)、D(59点以下)とする。						
		言語情報	知的技能	運動技能	態度・意欲	その他	評価割合
	実技テスト			○			50%
	発表・作品			○			40%
	所作・道具の手入れ			○	△		10%
履修上の注意	出席が4/5に満たない場合は実技試験の受験資格を与えない。						



- 科目名を記入します。学則と相違がないように確認してください。
- 任意で記入してください。
- 単位数、時間数、科目を指導する教員の名前を記入してください。単位数・時間数は学則と相違がないように確認してください。
- 実施される年度、時期(前期・後期・通年)を記入してください。実務家教員の担当科目には「○」を記入してください。
- 対象となるクラスを記入してください。複数の場合は区切り文字「・」を使用してください。
- 授業科目の概要を記入してください。(カリキュラム上の位置付け・主な学習項目など)

- 該当する授業形式に○を記入してください。複数の形式を併用する場合は、主たる方法に○、その他に△を記入してください。(職業実践専門課程の場合)
- 授業科目の到達目標を分かりやすく記入してください。DP/CPとの対応関係を到達目標として反映させてください。
「言語情報」「知的技能」「運動技能」「態度」の4分類のどの分類に該当する目標なのかを選び、○を記入してください。

- 使用するテキストや参考となる書籍を記入してください。Webページの場合はURLを記入してください。テキストを使用しない場合は、空欄とせず、「なし」を記入してください。
- 授業で取り扱う内容を各回ごとに記入してください。

同様のテーマを複数にわたり扱う場合は、「○○○○①」「○○○○②」のように記載するのではなく、

例えば、「○○○○① △△△、×××」「○○○○② □□□、◇◇◇」のように、回数ごとに扱うテーマのキーワード等を記入してください。

授業の性格上、回ごとに分けることが困難な場合でも、授業内容の大まかな順序が分かるよう、可能な範囲で具体的に記入してください。

複数教員で分担して担当する場合は、該当回の担当教員名を括弧書きで記入してください。

- 評価の方法を具体的に記入してください。定期試験については、筆記試験・口述試験・実技試験など実施方法を記入してください。
学習目標(到達目標)で選択した分類「言語情報」「知的技能」「運動技能」「態度」に対応させ、◎または○を記入してください。

- 上記以外で受講生に伝えることがある際には記入してください。



様式4(3)と一致させる)

」と記入してください。

課目名	ブライダルスタイリストコース(着付け)						
課目名(英)							
課目単位数	—	時間数	150時間のうち24時間	担当者	中川 佳代子		
実施年度	2019年度	実施時期	通年	実務家教員 担当課目	○		
対象学科・学年	美容科 2年生						
授業概要	美容師として、サロンワークとは異なるブライダルの専門的な技術習得を目指す。						
授業形式	講義:	演習:	実習: ○	実技: △	※ 主たる方法:○ その他:△		
学習目標 (到達目標)	言語 情報	知的 技能	運動 技能	態度 意欲	その他	目標	
		○	○			体型に合わせた、補正を行うことができる	
		○	○			振袖の着付け、帯結びができる	
		○	○	○		モデルの雰囲気合わせたトータルコーディネートができる	
テキスト・教材 参考図書							
授業計画	回数	授業項目・内容			授業外学修指示		
	1	補正と着付け準備 - 補正道具の作り方、着付けに必要な道具の名称と準備					
	2	補正と着付け準備 - 着付け準備の仕方、補正の仕方、長襦袢の着付け					
	3	補正と着付け準備 - 長襦袢・着物のたたみ方、片付け方					
	4	振袖着付け - 長襦袢の着付け復習、振袖着付け					
	5	振袖着付け - 振袖着付け、長襦袢・着物のたたみ方、片付け方復習					
	6	振袖着付け - 振袖着付け復習					
	7	振袖着付け - 振袖着付け復習					
	8	帯結び - 振袖着付け復習、帯結び					
	9	帯結び - 振袖着付け復習、帯結び					
	10	前期の復習 - 長襦袢の着付け復習、振袖着付け復習					
	11	振袖着付け実技テスト					
	12	振袖着付け実技テスト					
	13						
	14						
15							
評価方法	①授業中で実技テストを実施する。②毎時間ごとの作品作りを実施する。 以上を下記の観点・割合で評価する。 成績評価基準は、S(90点以上)・A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以下)とする。						
		言語情報	知的技能	運動技能	態度・意欲	その他	評価割合
	発表・作品		○	○	◎		50%
	実技テスト		○	○	◎		50%
履修上の注意							

課目名	Styling Map						
課目名(英)	Styling Map						
課目単位数	—	時間数	150時間のうち20時間	担当者	伊藤久美子		
実施年度	2019年度	実施時期	通年	実務家教員 担当課目			
対象学科・学年	美容科2年生【ブライダルスタイリストコース】						
授業概要	美容業界ではパーソナル(その人の個人に向けた)スタイリング提案がサービスの差別化の中心となっています。そのパーソナルに向けたスタイリング=完成の提案を論理に基づきお客様だけでなくスタッフ同士での共通言語となるStylingMapを学びます。						
授業形式	講義:	演習: ○	実習:	実技:	※ 主たる方法:○ その他:△		
学習目標 (到達目標)	言語 情報	知的 技能	運動 技能	態度 意欲	その他	目標	
	○					StylingMapの理論を説明することができる。	
		○				スタイリングのカウンセリング力を高め、実践することができる。	
		○				スタイリング提案の基礎を学び、説明することができる。	
				○		スタイリングを言語で伝えることができる。	
テキスト・教材 参考図書	Styling Map検定テキスト、筆記道具、ハサミ、アイシャドウパレット						
授業計画	回数	授業項目・内容			授業外学修指示		
	1	Styling Mapとは? 目的、目標、説明/セルフチェック			教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと		
	2	テイスト確認/分析・分類キーワード各種解説			教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと		
	3	復習テスト/色のいろいろ			授業内容に係る確認テストを実施するので、復習しておくこと		
	4	物の色、人の色(分析、解説、カラーカード)			授業内容に係る確認テストを実施するので、復習しておくこと		
	5	人の色(分析目視グループワーク)			授業内容に係る確認テストを実施するので、復習しておくこと		
	6	ウィッグデモンストレーション			授業内容に係る確認テストを実施するので、復習しておくこと		
	7	復習テスト/物の形(分析、解説)			授業内容に係る確認テストを実施するので、復習しておくこと		
	8	人の形(分析目視グループワーク)/物の素材(分析、解説)			授業内容に係る確認テストを実施するので、復習しておくこと		
	9	人の素材(分析、解説、分析目視グループワーク)/復習テスト			授業内容に係る確認テストを実施するので、復習しておくこと		
	10	検定対策			教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと		
	11						
	12						
	13						
	14						
15							
評価方法	(1)授業の中で小テストを数回実施する。(2)プレゼンを実施する。(3)検定試験を実施する。 態度・意欲は、出席・提出物・授業中の居眠りの回数などで評価する 以上を下記の観点・割合で評価する。 成績評価基準は、S(90点以上)・A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以下)とする。						
		言語情報	知的技能	運動技能	態度・意欲	その他	評価割合
	小テスト	○	○				10%
	発表・作品		○		○		10%
	授業態度				○		10%
	検定試験	○	○				70%
履修上の注意	ノーメイク、カラコンを外すことがあります。 実習では自分たちの洋服、小物を持参し使用することがあります。						

課目名	ヘアカラーリストコース(カラーコーディネイト)						
課目名(英)	Haircolorist Course (Color Coordinate)						
単位数	—	時間数	150時間のうち42時間	課目者	藤末 淑美		
実施年度	2019年度	実施時期	後期	実務家教員 担当課目	○		
対象学科・学年	美容科 2年次						
授業概要	似合う色を見極める色彩学の基礎を学び、パーソナルカラーを導き出すCUS(カラーアンダートーンシステム)を理解していきます。お客様に似合うヘアカラーについて提案が出来る知識の習得。そして、肌、瞳、髪の色に合わせて、メイクからネイル、ファッション、トータルで、お客様の個性を生かした「パーソナルカラー」の提案が出来る実践力を身につけていきます。 パーソナルカラーの基本をマスターし、パーソナルカラー検定3級取得(11月17日実施)も目指します。						
授業形式	講義: △	演習: △	実習: ○	実技: -	※ 主たる方法: ○ その他: △		
学習目標 (到達目標)	目標						
	言語情報	知的技能	運動技能	態度・意欲	その他		
	○	○					
	○	○					
	○	○					
テキスト・教材 参考図書	パーソナルカラー検定3級公式テキスト、ワークブック、配布資料 パーソナルカラー検定3級問題集						
授業計画	回数	授業項目・内容			授業外学修指示		
	1	パーソナルカラーについて(導入)、検定概要 ・色彩学の復習・パーソナルカラーの概要、アンダートーン の考え方					
	2	四季の自然を表す色、日本の色の歴史 ・四季を表わす色・特徴的な伝統色・色の歴史			テキストの該当範囲を事前に読んでおくこと		
	3	色と生活 ・周りを取り巻く様々な色・衣食住と色			テキストの該当範囲を事前に読んでおくこと 小テスト実施のため前回授業内容の復習をしておくこと		
	4	色の種類 ・赤、橙、黄、緑、青、紫、白、黒、グレー系統の色とイメージ			テキストの該当範囲を事前に読んでおくこと 小テスト実施のため前回授業内容の復習をしておくこと		
	5	色の性質 ・物体色と光源色 ・光の波長と色 ・光源の特性 ・目の構造と働き			テキストの該当範囲を事前に読んでおくこと 小テスト実施のため前回授業内容の復習をしておくこと		
	6	CUS表色系 ・CUS色相と色調 ・カラーアンダートーンシステム ・色相配色、色調配			テキストの該当範囲を事前に読んでおくこと 小テスト実施のため前回授業内容の復習をしておくこと		
	7	色の三属性と対比現象 ・対比現象と同化現象			テキストの該当範囲を事前に読んでおくこと 小テスト実施のため前回授業内容の復習をしておくこと		
	8	色の感情効果 ・色相、明度、彩度に関する心理効果			テキストの該当範囲を事前に読んでおくこと 小テスト実施のため前回授業内容の復習をしておくこと		
	9	CUS配色効果 ・アンダートーンとは ・アンダートーン配色 ・アンダートーン分類			テキストの該当範囲を事前に読んでおくこと 小テスト実施のため前回授業内容の復習をしておくこと		
	10	ファッション概論 ・ファッションと配色調和 ・基本的な配色テクニック ・イメージ用語の基礎知識と配色事例			テキストの該当範囲を事前に読んでおくこと 小テスト実施のため前回授業内容の復習をしておくこと		
	11	ブライダルと色彩 ・ウェディングと配色調和			テキストの該当範囲を事前に読んでおくこと 小テスト実施のため前回授業内容の復習をしておくこと		
	12	パーソナルカラー ・肌の色と皮膚の構造 ・髪色の科学			テキストの該当範囲を事前に読んでおくこと 小テスト実施のため前回授業内容の復習をしておくこと		
	13	シーズン毎の特徴(サマー・ウィンター) ・サマー、ウィンターの特徴(メイク、アクセサリー)			テキストの該当範囲を事前に読んでおくこと		
	14	シーズン毎の特徴(スプリング、オータム) ・スプリング、オータムの特徴(メイク、アクセサリー)			テキストの該当範囲を事前に読んでおくこと		
	15	パーソナルカラー実践(1)ー診断方法 ・パーソナルカラーの見分け方 ・ペアになりお互いを診断			実施内容の復習		
	16	パーソナルカラー実践(2)ーパーソナルカラー診断ロールプレイ ・ペアで診断 ・シーズン毎の配色レッスン			実施内容の復習		
	17	パーソナルカラー実践(3)ー診断と配色コーディネートの提案 ・ペアで診断 ・各シーズンのカラーージュ作成			実施内容の復習		
	18	検定模擬試験 ・流行色とは ・2020SSの流行色とその特徴			検定範囲全体の復習をしておくこと		
	19	2020年流行色					
	20	パーソナルカラーまとめと発表			講座全体の復習をしておくこと		
21	総まとめテスト			講座全体の復習をしておくこと			
評価方法	(1)講座最終日に総まとめテストを実施する (2)確認の小テスト (3)カラーカード等を用いた課題の提出 (4)実習技能 以上を下記の観点・割合で評価する。 成績評価基準は、S(90点以上)・A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以下)とする。						
		言語情報	知的技能	運動技能	態度・意欲	その他	評価割合
	総まとめテスト	◎					30%
	小テスト(理解度確認テスト)	○					10%
	課題	○					5%
	実習技能		◎		○		50%
受講姿勢・出席				◎	○	5%	
履修上の注意	出席回数が授業回数の2/3に満たない場合は、単位を与えない						

課目名	選択ヘアカラーリストコース(ヘアカラー)					
課目名(英)						
課目単位数	—	時間数	150時間のうち78時間	担当者	渡邊・遠藤	
実施年度	2019年度	実施時期	通年	実務家教員 担当課目	○	
対象学科・学年	美容科2年 ヘアカラーリストコース					
授業概要	ヘアカラーの種類のポイントを知り、ヘアカラーのケミカルを学び、それを実際に技術提供できることを目標とする。					
授業形式	講義: △	演習:	実習: ○	実技: △	※ 主たる方法: ○ その他: △	
学習目標 (到達目標)	言語 情報	知的 技能	運動 技能	態度 意欲	その他	目標
	○					ヘアカラー概論、染毛のメカニズムを知り説明することができる。
		○				毛質にあった薬剤選択ができる。
		○				毛質にあった技術提供ができる。
テキスト・教材 参考図書	公益社団法人 日本理容美容教育センター 出版 美容技術理論1					
あど	回数	授業項目・内容			授業外学修指示	
	1	ヘアカラー概論			教科書を読んでおく事。	
	2	ヘアカラーの種類			前回の授業の復習をしておく事。	
	3	ヘアカラーのタイプ別特徴			前回の授業の復習をしておく事。	
	4	染毛のメカニズム			前回の授業の復習をしておく事。	
	5	酸性染毛料(ヘアマニキュア)			前回の授業の復習をしておく事。	
	6	ヘアブリーチ①			前回の授業の復習をしておく事。	
	7	ヘアブリーチ②			前回の授業の復習をしておく事。	
	8	色の基本			前回の授業の復習をしておく事。	
	9	補色の効果			前回の授業の復習をしておく事。	
	10	彩度と明度			前回の授業の復習をしておく事。	
	11	毛髪のアンダートーンとレベルについて			前回の授業の復習をしておく事。	
	12	アルカリ性カラー①			前回の授業の復習をしておく事。	
	13	アルカリ性カラー②			前回の授業の復習をしておく事。	
	14	ヘアカラーをしている人の場合			前回の授業の復習をしておく事。	
	15	ヘアカラーの色選び			前回の授業の復習をしておく事。	
	16	ヘアカラーリングの注意事項			前回の授業の復習をしておく事。	
	17	毛質(硬毛・柔毛・乾燥毛・脂性毛など)について知る			前回の授業の復習をしておく事。	
	18	毛髪の長さや毛量			前回の授業の復習をしておく事。	
	19	作品作り①			前回の授業の復習をしておく事。	
	20	作品作り②			前回の授業の復習をしておく事。	
	21	作品作り③			前回の授業の復習をしておく事。	
	22	作品作り④			前回の授業の復習をしておく事。	
	23	作品作り⑤			前回の授業の復習をしておく事。	
	24	作品作り⑥			前回の授業の復習をしておく事。	
	25	作品作り⑦			前回の授業の復習をしておく事。	
	26	作品作り⑧			前回の授業の復習をしておく事。	
27	作品作り⑨			前回の授業の復習をしておく事。		

	28	作品作り⑩	前回の授業の復習しておく事。				
	29	作品作り⑪	前回の授業の復習しておく事。				
	30	作品作り⑫	前回の授業の復習しておく事。				
	31	作品作り⑬	前回の授業の復習しておく事。				
	32	作品作り⑭	前回の授業の復習しておく事。				
	33	作品作り⑮	前回の授業の復習しておく事。				
	34	仕上げ・撮影①	前回の授業の復習しておく事。				
	35	仕上げ・撮影②	前回の授業の復習しておく事。				
	36	カラーリング(相モデル)①	前回の授業の復習しておく事。				
	37	カラーリング(相モデル)②	前回の授業の復習しておく事。				
	38	カラーリング(相モデル)③	前回の授業の復習しておく事。				
	39	カラーリング(相モデル)④	前回の授業の復習しておく事。				
評価方法	(1)授業の中で小テストを3回実施する。(2)企画書作成を数回実施する。(3)定期試験(筆記)を実施する。 以上を下記の観点・割合で評価する。 成績評価基準は、S(90点以上)・A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以下)とする。						
		言語情報	知的技能	運動技能	態度・意欲	その他	評価割合
	作品制作		◎				80%
	企画書作成		○				15%
	発表		○		○		5%
履修上の注意							

課目名	選択ヘアカラーリストコース(ヘアカラー理論)						
課目名(英)							
課目単位数	—	時間数	75時間のうち15時間	担当者	藤野 渡邊 遠藤		
実施年度	2019年度	実施時期	前期	実務家教員 担当科目	○		
対象学科・学年	美容科2学年						
授業概要	・毛髪科学理論から始まり、カラーの色彩原理、基礎知識を理解する事で美容室に入社した際にカラー技術の理論をしっかりした状態で入客できるようになる						
授業形式	講義	○	演習:	○	実習:	○	
				実技:	○	※ 主たる方法:○ その他:△	
学習目標 (到達目標)	言語 情報	知的 技能	運動 技能	態度 意欲	その他	目標	
	○	○				毛髪の基礎知識を学び、説明することができる。	
	○	○				薬剤のケミカル知識を学び、説明することができる。	
		○	○			色の色彩原理を知り、ヘアカラーに応用できるようになる。	
		○	○			正しいハケの使い方を知り、頭髪に塗れるようになる。	
		○			適材適所で薬剤を使えるようになる。		
テキスト・教材 参考図書	カラー道具一式、B4毛髪理論プリント、A4色彩理論プリント						
授業計画	授業項目・内容			授業外学修指示			
	1	教材配布、オリエンテーション					
	2	毛髪理論、ケミカル知識講義			プリントを事前に読んでおくこと		
	3	毛髪理論、ケミカル知識講義			プリントを事前に読んでおくこと		
	4	毛髪理論、実技、ワンメイクカラー			プリントを事前に読んでおくこと		
	5	毛髪理論、実技、ワンメイクカラー			プリントを事前に読んでおくこと		
	6	毛髪理論、実技、ワンメイクカラー			プリントを事前に読んでおくこと		
	7	毛髪理論、実技ホイルカラー(ベーシック)			プリントを事前に読んでおくこと		
	8	毛髪理論、実技ホイルカラー(ベーシック)			プリントを事前に読んでおくこと		
	9	毛髪理論、実技ホイルカラー(ベーシック)			プリントを事前に読んでおくこと		
	10	毛髪理論、ホイルカラー(アドバンス)			プリントを事前に読んでおくこと		
	11	毛髪理論、ホイルカラー(アドバンス)			プリントを事前に読んでおくこと		
	12	毛髪理論、ホイルカラー(アドバンス)			プリントを事前に読んでおくこと		
	13	理論テスト、実技テスト			配付されたプリントをすべて見返し、ウイッグで練習しておくこと		
	14	理論テスト、実技テスト			配付されたプリントをすべて見返し、ウイッグで練習しておくこと		
15	理論テスト、実技テスト			配付されたプリントをすべて見返し、ウイッグで練習しておくこと			
評価方法	①実技テストの実施 ②アイモデルでの実技テストの実施 以上を下記の観点・割合で評価する。 成績評価基準は、S(90点以上)・A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以下)とする。						
		言語情報	知的技能	運動技能	態度・意欲	その他	評価割合
	実技テスト	○	○	○	○		80%
	発表・作品		○	○	○		20%
履修上の注意	講義をしっかり聞き、説明した手順を一つ一つ丁寧に行っていくこと。						

課目名	就職実務						
課目名(英)							
課目単位数	—	時間数	16時間	担当者	西依・吉田・遠藤・渡邊		
実施年度	2019年度	実施時期	前期	実務家教員 担当課目			
対象学科・学年	美容科2年						
授業概要	就職活動に必要な企業情報と共に特徴を知り受験対策を考えさせる。 起承転結を活用した履歴書作成を行ない早期内定を目指す。						
授業形式	講義: ○	演習:	実習:	実技:	※ 主たる方法:○ その他:△		
学習目標 (到達目標)	言語 情報	知的 技能	運動 技能	態度 意欲	その他	目標	
	○					求人票・WEBからの企業情報を基に受験までのスケジュールリングが出来る。	
	○					受験にあたり、受験報告書を基に対策を考える事が出来る。	
		○				起承転結を活用した履歴書作成が出来る。	
テキスト・教材 参考図書	TONI&GUY DVD SARA DVD FORTE DVD JBCA DVD						
授業計画	回数	授業項目・内容				授業外学修指示	
	1	①TONI&GUY DVDとサロンについて ②履歴書作成				TONI&GUYについて企業リサーチ	
	2	SARA DVD 経営者の起業努力と経営哲学について				SARAについて企業リサーチ	
	3	SARA DVDを見てのレポート・共有				DVDを見ての感じたこと考えたことを自分なりにまとめておく	
	4	FORTE DVD 経営者のスタッフに対する想いについて				FORTEについて企業リサーチ	
	5	FORTE DVDを見てのレポート・共有				DVDを見ての感じたこと考えたことを自分なりにまとめておく	
	6	JBCA DVD それぞれのサロンのお客さまへの想いについて				JBCA加盟サロンについて企業リサーチ	
	7	JBCA DVDを見てのレポート・共有				DVDを見ての感じたこと考えたことを自分なりにまとめておく	
	8	将来どのような○○になるか 文章に起こし共有				自身の将来像について、10年後・5年後・3年後・1年後など	
	9						
	10						
	11						
	12						
	13						
	14						
15							
評価方法	(1)授業後のレポート提出を行なう。 (2)宿題として感想文・レポートを提出を課す場合がある。以上を下記の観点・割合で単位認定をする。 成績評価基準は、R判定とする。						
		言語情報	知的技能	運動技能	態度・意欲	その他	評価割合
	宿題・レポート	○					50%
	発表・作品				○		50%
履修上の注意							

課目名	総合学習						
課目名(英)							
課目単位数	—	時間数	16時間	担当者	渡邊 正明 遠藤 広美 吉田 由花子 西依 優		
実施年度	2019年度	実施時期	通年	実務家教員 担当課目			
対象学科・学年	美容科 2年次						
授業概要	就職内定を目指すためのコミュニケーション力向上、美容師国家資格取得に向けての技術力、知識力向上を目指す。						
授業形式	講義: ○	演習:	実習:	実技:	※ 主たる方法:○ その他:△		
学習目標 (到達目標)	言語 情報	知的 技能	運動 技能	態度 意欲	その他	目標	
			○			就職内定を目指す。	
			○			国家資格技術合格レベルを目指す。	
		○				国家資格筆記合格レベルの知識を理解し説明することができる。	
テキスト・教材 参考図書	国家試験対策プリント ターム表 国家試験実技試験用道具						
授業計画	回数	授業項目・内容				授業外学修指示	
	1	就職に向けて、年間スケジュールの確認 個人目標 健康診断					
	2	1,2年 学生交流 レクリエーション					
	3	1,2年 学生交流 レクリエーション					
	4	学生交流 レクリエーション 粕屋町総合体育館 球技大会 リレー等					
	5	夏季休暇前事前学習 長期休暇前の諸注意等					
	6	国家試験 筆記 事前学習 対策プリントを使用し解答・解説を中心に苦手科目の学習を行なう					
	7	国家試験 筆記 事前学習 対策プリントを使用し解答・解説を中心に苦手科目の学習を行なう					
	8	国家試験 筆記 事前学習 対策プリントを使用し解答・解説を中心に苦手科目の学習を行なう					
	9						
	10						
	11						
	12						
	13						
	14						
15							
評価方法	(1)態度・意欲は、出席・授業中の居眠りの回数などで評価する。 (2)成績評価基準は、出席、レポートの評価を加味し(R)認定とする。						
		言語情報	知的技能	運動技能	態度・意欲	その他	評価割合
	宿題・レポート	○					80%
	授業態度				○		20%
履修上の注意							

課目名	グローバルシティズンベーシックⅡ						
課目名(英)	GLOBAL CITIZEN basicⅡ						
課目単位数	—	時間数	16時間	担当者	渡邊 正明 遠藤 広美 吉田 由花子 西依優		
実施年度	2019年度	実施時期	前期	実務家教員 担当課目			
対象学科・学年	美容科 2年						
授業概要	社会の変化に対応出来る良識とスキル・知識を備え、常に挑戦する意欲に満ちた専門職として育成し、即戦力として社会に送り出す。世界は自立しながらも互いに協力しながら成り立っている為、恵まれた人生に感謝し、地域国家の発展の為に貢献できる人材であるグローバルシティズンを目指す。						
授業形式	講義: ○	演習:	実習:	実技:	※ 主たる方法:○ その他:△		
学習目標 (到達目標)	言語 情報	知的 技能	運動 技能	態度 意欲	その他	目標	
		○				考えることの大切さを知る(先人の話や自分を取り巻く環境についての具体的な話から、様々な事を考える。)	
	○					自分の言葉で伝える大切さを知る(言語化の作業を沢山行う事でその大切さに気づき、自分の成長を実感する)	
		○				目標の大切さ、志の大切さを知る(目標が定まらなければ、行動できない事を知る)	
				○		行動する大切さに気づく(知行合一、学んだことは行なわなければ意味が無い事に気づく)	
テキスト・教材 参考図書	GCBテキスト 視覚教材						
授業計画	回数	授業項目・内容				授業外学修指示	
	1	グローバル シティズンと志 ～志とは何か。どうすれば志を立てる事が出来るのか～					
	2	なぜ志をたてる事が大切なのか ～世界中の中の日本 日本の私～				第1講話のレポート提出	
	3	自己を知る ～私の過去・現在・未来～				第2講話のレポート提出	
	4	伝える力を学ぶ ～「個」としての伝える力を高める(自分の言葉で自分の思いと考えを伝える)～				第3講話のレポート提出	
	5	伝える力を学ぶ「グループコミュニケーション」 ～勇気と思いやりを持って言葉のキャッチボールを～				第4講話のレポート提出	
	6	与えられた一度の人生に感謝し、志高く生きる。(言葉の力とプロ意識に学ぶ)				第5講話のレポート提出	
	7	自己の大切さと責任を自覚する。				第6講話のレポート提出 スピーチ練習	
	8	GCBⅡを受講して、私が感じた事・気づいた事・学んだこと				第7講話のレポート提出	
	9						
	10						
	11						
	12						
	13						
	14						
15							
評価方法	(1) 受講後には毎回レポートを提出する。 (2) 最終授業の中で1人2分間のスピーチを実施する。 (3) 成績評価基準は、出席、レポート、スピーチを加味し(R)認定とする。						
		言語情報	知的技能	運動技能	態度・意欲	その他	評価割合
	宿題・レポート	○					50%
	発表・作品				○		50%
履修上の注意							